

《日本研究所主催講演会 講演録》

## 明治一五〇年 神田佐野文庫公開記念

# 洋学貴重資料にみる絵と言葉——江戸から明治へ——

松田 清

### はじめに

#### 神田佐野文庫

ただいま紹介にあずかりました松田です。ここに掲げました同じテーマで、一月一日より附属図書館で展示を行っております。その展示目録をお手元に配布していただきます。ほぼ展示の順序にそって、これからお話しいたします。

展示資料は全部で三九点です。附属図書館展示室の入口左手から、まず北方・アイヌ関係資料を四点、次に左と正面の壁面に蘭学資料一四点、右の壁面に英学資料二一点、それぞれ展示ケースで御覧いただくようにしました。

神田佐野文庫は昨年、本学の開学三〇周年を契機として附属図書館に設置されたもので、その構成は次の通りです。

#### 1. 神田外語グループ会長、故佐野隆治氏収集

若林正治コレクション洋学資料 一四三〇点

日本関係洋書

約六〇〇点

#### 2. 二〇一七年以降 新規購入貴重資料

シーボルト『日本』図巻182(32~)

ジャワ植物図譜(宇田川榕菴・辻蘭室筆1818)

一八一五年ナポレオン戦役銅版図・メダル一式

今年七月一二日から、まず蘭学資料二〇五点について、この一月一から英学資料六九五点について、電子目録を公開し、資料の利用公開を始めたところです。

今回の展示資料三九点は、この文庫から精選した貴重資料です。「彩色ジャワ植物図譜」の原本を展示室で御覧いただけますが、それとは別に、三号館にこのたび新設されました常設展示コーナーに、その原本から作成しましたマット装丁

の複製を六枚展示しております。

## 明治一五〇年

さて、明治改元から一五〇年の今日、江戸から明治への転換を、また、この一五〇年間でどのようにとらえるのか。私は二つの視点から考えて見たいと思います。一つは一世紀ほど溯って一七七〇年代の世界史から考える視点です。一七七〇年代は島国イギリスがインド大陸支配により、経済的發展を始めた時代です。欧州大陸では日本人を「アジアのイギリス人」と捉え、日本への関心が高まりました。ピエール・クロード・ルジュヌスというフランスのカトリック司祭が『日本及び日本人に関する批判的哲學的考察』と題するフランス語の書物を一七八〇年にアムステルダムで出版し、その中で、日本人は豪毅かつ禁欲的だ、しかも高い士氣を保つという点がイギリス人と共通している、と肯定的に評価しております。しかし、「日本人はアジアのイギリス人である」と最初に唱えたのは、ルジュヌスよりも先に、同じくカトリックの学僧シャルヴォア（一六八二―一七六一）でした。ただし、シャルヴォアは日英共通の自死の伝統を、非キリスト教的な欠点と非難したのでした。

一七七〇年代の世界を概観しますと、イギリスによってインドを追い出されたフランスは、イギリスのインド支配を批

判し続けます。フランス革命・ナポレオン戦争の背景には、西欧における英仏の経済的対立がありました。オランダは蘭領東インドの支配を維持していました。日本では蘭学が勃興しましたが、その地理的背景の第一は南方におけるオランダの植民地支配であり、第二は北方におけるロシアの脅威でした。女帝エカテリーナ二世は東方進出をめざすとともに、不凍港を求める南下政策を進めました。中国大陸では清の乾隆帝（在位一七三五―九六）が漢文化を継承するとともに、周辺諸民族を攻め、最大版図を実現しました。アメリカ合衆国は独立（一七七六）後、西方フロンティアの開拓に邁進していました。フィリピンはスペインの植民地でした。

日本では一七七〇年代に蘭学が勃興しました。前野良沢らの『解体新書』翻訳・出版（一七七四）は、本朝・唐・天竺の三大文明観から脱却する出発点となりました。

明治一五〇年の意義を考える第二の視点は、江戸から明治への文明の転換という視点です。幕府は開国（一八五四）によって欧米をモデルとする文明開化を先導しました。そのため、幕府は文教政策において、和学・漢学から「洋学」推進へと舵を切りました。明治維新は王政復古の形のもと、天皇の軍隊を創出しました。この士族解体のプロセスは西南戦争で完結しました。明治政府は幕府の「洋学」路線を継承発展させ、殖産興業、富国強兵を推進しました。

以上、二つの視点を合わせますと、明治一五〇年は、より広い時空のもと、「洋学」二五〇年として考えるのも有効かと思えます。しかも、島国日本は江戸時代から、蝦夷、ロシア、唐（支那）、朝鮮、琉球、西欧諸国（西葡蘭英仏独）、アメリカなどと、直接間接に接触・交流してきました。したがって、「洋学」は「西洋」学ではなく「洋」学として、日本における複数の文明学となるはずで、とても不十分ですが、神田佐野文庫から選んだ、北方・アイヌ関係資料四点、蘭学資料一四点、英学資料二一点をこの文明交流史の視点から見ていきたいと思います。

洋学貴重資料展を北方・アイヌ関係資料から始めたのは、蘭学は当初から、南下するロシアに対抗して幕府が進めた海外事情研究という重要な役目を担っていたからです。蘭学の心理的背景には、後の日露戦争まで続くロシア恐怖症があったと言っても過言ではありません。しかし、同時に、蝦夷地やロシアからもたらされる様々の文物や情報は、江戸後期社会に階層を越えた異国趣味の流行を生み出したからです。異国趣味は西洋趣味だけではなかったのです。

## 一、北方・アイヌ関係資料

### 1 蝦夷地歌仙 蝦夷地取締御用 羽太正義作

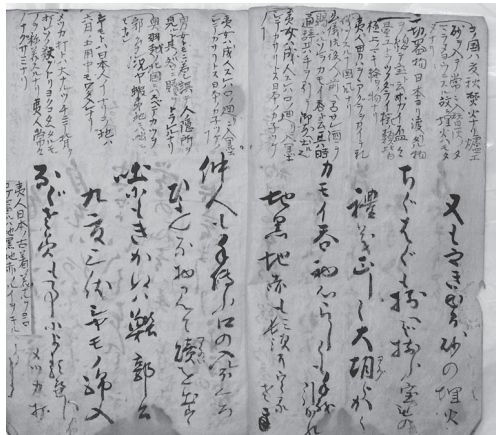
享和元年（一八〇二）作 文化一四年（一八一七）写

作者は教養ある旗本です。異国、異民族の文化に触れたとき、和歌や漢詩を作るのは江戸時代の教養人の通例でした。羽太は寛政一一年（一七九九）以来、蝦夷地御用掛の任にありました。クナシリ島を視察した際に、「夷人」（アイヌ）の風俗を詠んだ歌仙を作り、頭注で風俗を解説しています。歌仙は長句（五七五）、短句（七七）を交互にして都合三六句からなります。幕府は蝦夷地経営を本格化させるため、享和二年（一八〇二）年羽太を初代蝦夷奉行（のち箱館奉行）に任命しました。この歌仙の一部を読んでみましょう。目録の補遺を御覧下さい。

ちぐはぐも揃へぞ揃ふ宝もの

礼儀正しく大胡らかく

アイヌの首長は日本人から不揃いの漆器を入手して宝物にしている。礼儀正しいけれども、正座ではなく胡座をかいている。



©Kanda Sano Library, KUIS.

カモイ呑初<sup>のむ</sup>心らしくも手を引かれ

地黒地赤も鬚にうるさき

カモイ呑むとは「公儀御役人ノ前へ召サレ酒ヲ賜ハル」こと。首長たちはアイヌ語通訳に手を引かれ、奉行の前に出て、大盃の酒を賜るが、赤や黒の漆塗りの大盃も、長い鬚<sup>ひげ</sup>の邪魔になる。

仲人も手伝ふ口の入レはくる

ひよんな物見て贖<sup>つぐない</sup>を出す

アイヌの女性は成人すると、仲人の手助けで、口のまわりに入れ墨をする。日本女性のお歯黒のようなものだ。男も女も相手の陰部を眼にすると罰として償いしなければならぬ。

咄<sup>はなし</sup>にもきかぬハ鯉<sup>かつおぼしとす</sup>郭公

九夏三伏シャモノ綿入

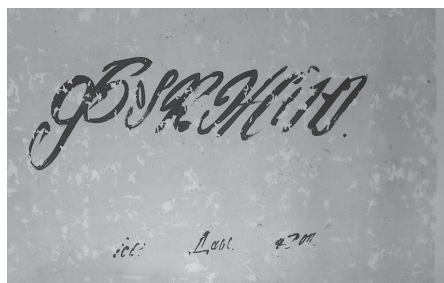
蝦夷地では、夏の名物である鯉やホトトギスの話を、まったく聞いたことがない。九夏（夏の九十日間）三伏（夏の盛り）の暑い季節も、アイヌの人々は日本人（シャモ）からもらった綿入れを着て過す。

## 2 大黒屋光太夫ロシア文字「福寿」 一八一〇年代

縦三・一cm、横四・七cmの和紙に墨と筆で、「FUKUKUO / IC FUKU KOO」（フクジュ / イセ ダイコー）と二行書きしています。「福寿 伊勢 大光」の意味です。

伊勢の港町白子<sup>しろこ</sup>の船頭大黒屋光太夫（一七五一―一八二八）は一七八三年一月一日に遭難し、ロシアに漂流。ロシアの女帝エカテリーナ二世の許可を得て、一七九二年一〇月九日、使節アダムス・ラクスマンに送られて、一〇年ぶりに、部下の小市<sup>こいち</sup>、磯吉とともに根室に帰国しました。翌年、





©Kanda Sano Library, KUIS.

小市は根室で病死しましたが、光太夫と磯吉は江戸に移送され、幕府の対ロシア政策に必要な貴重なロシア情報をもたらししました。一七九三年一〇月、二人は將軍家齊の上覧を受けて時の人となりました。將軍侍医・蘭学者の桂川甫周は光太夫からロシア事情を聞き取り、翌年、日本最初の本格的なロシア研究書『北槎聞略』<sup>（はくさぶんりやく）</sup>を著しました。

光太夫のロシア体験談とロシア文字は支配層や知識人だけでなく、庶民の耳目も集めました。持ち帰ったロシアの文物、衣服、生活用具は鎖国下の庶民の好奇心を刺激し、当時各地で流行した見せ物に出品され、引っぱりだことなりました。とくに光太夫自筆のロシア文字は珍しがられ、光太夫は方々から求められてロシア文字の書を揮毫しました。

寛政七年（一七九五）八月、名古屋大須の寺で開催された漂民小市の遺品展には、ロシア文字で「今啼た声はたしかに時鳥」<sup>（はしとあやす）</sup>と墨書した掛物が出品されました。

た。享和二年（一八〇二）、光太夫は許されて故郷の白子に帰りました。この年、京都の蘭学者辻蘭室は光太夫の書いたロシア文字のアルファベットを入手し、言語学的な分析を加えています。

光太夫自筆のロシア文字墨書は所在不明となったものも含めて、現在までに四〇点ほど知られています。光太夫の出身地、三重県鈴鹿市若松町にある光太夫記念館には、そのうち二〇点が収集されています。イロハ文字（一三例）、ツル（六例）について多いのが「フクジュ」です。「フクジュ」はこれまで四点知られており（うち一点は所在不明）、本文庫の「フクジュ」は五例目となります。過去四点の「フクジュ」の墨書のうち最も古い日付は、「文化九年申歳五月吉日 大光書 六十式翁」とあるもので、同じ日付のものが別一枚、六七歳のものが一枚、日付も歳もないものが一枚あります。

ツル（六例）、カメ（二例）、マツ（一例）は長寿を象徴するめでたい文字です。フクジュ（五例）も同様ですが、そのロシア文字によるローマ字書きが庶民の趣味に合い、相当流布したと思われます<sup>③</sup>。

蘭学の普及とともにオランダ語のローマ字墨書が為政者や学者・知識人、富裕な好事家に好まれ、オランダ通詞は彼らの求めに応じて、オランダ人の手をまねて内職としました。

こうした現象と比べますと、漂民光太夫のロシア文字はより庶民的で、光太夫は庶民のスター的存在として、一時的にせよ、ロシアに対する庶民的な異国趣味を巻き起こしたと言えます。

また、ツル、カメ、フクジュは文化年間（一八〇四―一八）に巻き起こった園芸ブームと無縁ではありません。光太夫がこうしたためたい言葉をロシア文字で書いたのは当時の福寿草ブームを反映していると思われます。福寿草の鉢植えが流行し、染め付けの鉢にはツルやカメや七福神が画かれていました。<sup>④</sup>晩年の光太夫は「フクジュ」とロシア文字を墨書するたびに、ロシアの厳しい冬に耐えて生き長らえ、帰国できた喜びを福寿草に見いだしていたのではないのでしょうか。この書は大変力強い筆致で、彼の意志の強さも感じ取ることができます。

蘭学の勃興とともに、オランダ文字に対する異国趣味が盛んになりましたが、ロシア文字はさらに一層珍しいものでした。また、オランダ文字の読み書きに対する関心は国学者や戯作者にまで広まりました。

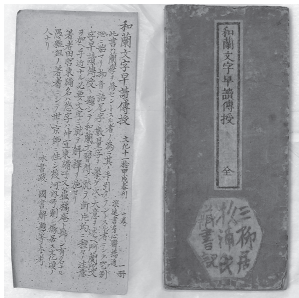
3 和蘭文字早読伝授 田宮仲宣（蘆橋庵）編

文化十一年（一八一四） 浪速書房刊 折本 一帖 二

九折 跋文「環鞠岡誌」



©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.

編者の田宮仲宣は戯作者です。号を「蘆橋庵」といい、跋文の後に「蘆橋庵先生著書目」があります。奥付「文化十一稔甲戌春 浪速書房心齋橋通」に「尾原仁哉什用」と墨書があります。表紙の「三柳居杉浦氏蔵書記」という六角形の蔵書印は、大正、昭和前期の京都の蔵書家・収集家、杉浦三郎兵衛（号は丘園）のものです。杉浦の収集書は丁寧な解題を墨書した薄緑色の用箋が必ず挿入されています。神田佐野文庫の若林正治コレクションにはこの用箋を挿入した蘭学資料が相当数受け継がれています。<sup>⑤</sup>

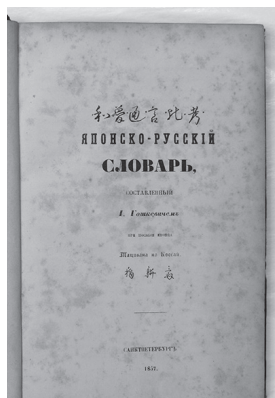
4 魯西亞以呂波 イワン・マホワ (Ivan Makhova) 著

一八六一年 (文久元) 箱館 鈴木重吉刊 コシケー  
ヴィチ所贈

コシケーヴィチはロシア帝国の初代駐日領事です。著者イ  
ワン・マホワは箱館の駐日領事館付き司祭です。表紙の見返  
しの書き入れは、「魯西亞ゴシケミツ所贈之書也 芝赤羽根  
外国人旅宿ニ於て 田原毅」「こしけミツおくる所の魯のい  
ろは 既に二十年昔しとぞなる 田原 毅」と判読されま  
す。後表紙には「魯西亞以呂波 文久元年酉年三月朔日」の



©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.

墨書があります。一八六一年四月一〇日にあたります。

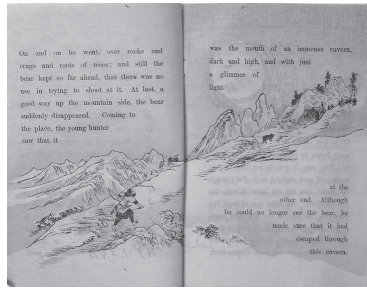
コシケーヴィチは橘耕斎との共編で、『和露辞典』『和魯通言  
比考』(サンクトペテルブルク、一八五七)を著しました。

5 チェンバレン著 アイヌ昔 嚟 仙境の狩人

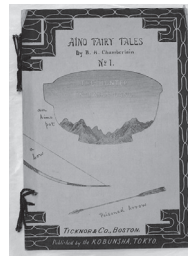
明治二〇年 (一八八七) 四月一三日版權免許 弘文社  
(長谷川武次郎) 版

AINO FAIRY TALES. By B. H. Chamberlain No. 1.  
THE HUNTER IN FAIRY LAND. Ticknor & Co.,  
Boston Published by the KOBUNSHA, TOKYO.

バジル・ホール・チェンバレン (Basil Hall Chamberlain,  
1850-1935) は英国の日本研究家です。明治六年 (一八七  
三) 年来日し、海軍兵学校の教師を経て、明治十九年 (一八  
八六) 東京帝国大学文科大学教師となりました。アイヌ語の



©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.

研究にも従事し、明治二十三年（一八九〇）に病氣のため帰国しました。

長谷川武次郎（弘文社）は縮緬本「日本昔噺」シリーズ（明治一八年）の出版で知られていますが、木版多色刷りの本書は縮緬紙ではなく、普通紙を使用しています。表紙はアイヌ衣服の図柄で四辺を囲み、アイヌの鉢、毒矢、弓、矢筒を配しています。

## 二、蘭学資料

### 6 火流布図

Willem van Ranouw, *Kabinet der natuurljke historien, wetenschappen, konsten en handwerken*. Amsterdam, 1719-23. 7 (of 9) vols.

ウィレム・ファン・ラーナウ『博物・学芸・技芸陳列館雑誌』（第8巻第43図 Fig.13. ~ Fig.15.）

ラーナウはオランダのフラーネケル市長を務め医学博士でもあった著述家です。彼の編集刊行した本書は知識の普及という一八世紀前半のヨーロッパ啓蒙思想をよく表している隔月刊の博物雑誌です。本書は蘭学勃興期の天明年間（一七八〇年代）に舶載され、前野良沢（一七二三〜一八〇三）ら蘭学社中の「火流布」（アスベストの古代中国名）研究に利用された可能性が高いものです。旧蔵者は良沢の門人でパトロ<sup>パトロン</sup>ンでもあった、紀州徳川家の九男頼徳<sup>よしたか</sup>、のちの桑名藩主松平忠和（一七五九〜一八〇二）と推定されます。前野良沢の蘭学仲間、宇田川玄随（槐園、一七五五〜九七）は本書のハーファイトル「Konst Cabinet」と探って『諸術秘蔵』と呼びました。なかなかの名訳です。

良沢を指導者とする『解体新書』（一七七四）の翻訳グ

ループは西洋医学だけでなく博物学、地理歴史、天文測量の研究にも取り組みました。当時、入手困難な珍品として評判となっていた「火浣布」もグループの探求心の対象となりました。良沢はこの『諸術秘蔵』のアスベスト記事と、ボイス編訳『新修学芸百科事典』のアスベスト項目をもとに、天明三年（一七八三）頃、漢訳「火浣布」（訳説）を著しました。



©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.

ボイスは良沢とはほぼ同世代で、英語に堪能なアムステルダム  
の辞書編纂者です。

良沢は本書第八巻の銅版折込図版のアスベスト図（上掲）  
から五図を模写し、火浣布の名称、産地、種類、形状、薬効  
の部分の抄訳しましたが、ラーナウの原文は良沢のオランダ  
語力を越える部分が多く、誤訳が目立ちます。

7 医範提綱内象銅版図 いはていこうないしょうばんず 宇田川榛斎著 うだがわしんさい 亜欧堂田善鑄 あおうどうでんぜん

文化五年（一八〇八） 青藜閣須原屋伊八刊一帖 第五

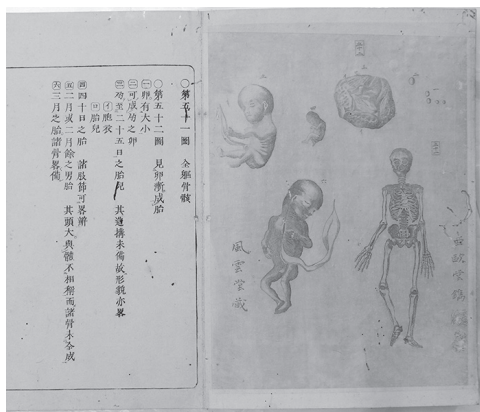
十一図 全軀骨骸 第五十二図見卵漸成胎（卵漸く胎

を成すを見る）

本書は日本最初の銅版解剖図譜です。その簡明な漢文説明  
によって、本文編『和蘭内景医範提綱』（文化二年一八〇五  
刊）とともに、幕末まで解剖知識の普及に貢献しました。著  
者宇田川榛斎（玄真、一七六九―一八三四）は玄随の死後、  
宇田川家を継ぎました。津山藩医の宇田川家は玄随、玄真  
（榛斎）、榕菴（一七九八―一八四六）、興斎（一八二一―八  
七）と四代にわたって江戸蘭学の本流をなす家柄です。興斎  
はあとで述べますように幕末英学の推進者として活躍しまし  
た。

本書の銅版製作者亜欧堂田善は松平定信に仕えた優れた銅  
版師でした。書誌は次の通りです。





©Kanda Sano Library, KUIS.

一七折。表紙は杉板製。題簽欠。扉（口絵、1ウ）の銅版図（ブランクアルト肖像および解剖教室図）上方および左右に「文化戊辰春刻／西哲 勃郎合爾都肖像／右一面亜欧堂門人新井令恭鐫」。「題言三則」（2オ、訓点付き）の欄外に「石橋栄達藏書」印。石橋栄達は旧制第三高等学校教授（生物）。「題言三則」の末尾「文化戊辰之春三月 門人加州藤井俊方亭謹記」。

解剖銅版図版一五葉を各折の裏側に貼付し、見開き右に図

版、左（次折の表）に解説（訓点付き、木活字版）を配しています。図版一五葉（一六ウ、第五十一図・第五十二図）に「亜欧堂鐫」「風雲堂藏」の刻文があります。風雲堂は宇田川榛斎の塾名です。跋文（一七ウ）末尾「文化戊辰春三月 紫石 杉田勤（印）（印）／芳水 武田信任宋字之」。

後表紙見返し「榛斎宇田川先生著述發行書目／和蘭内景医範提綱 全三冊／同 内景銅版図 箱入全一帖／増補和蘭藥鏡 每篇以三冊為第一帙 全十八冊／遠西医方名物考 同上 全三十六冊／同 補遺 同上 全九冊／理學入門植學啓原 宇田川榕菴先生著 采色図入 全三冊／書賈 青黎閣 江戸浅草茅町二丁目 須原屋伊八」。

## 8 彩色ジャワ植物図譜

フランシスコ・ノローニャ原著（一七八六年、西ジャワにて）画・宇田川榕菴模写 蘭文・辻蘭室筆写文化一五年（一八一八）頃成

無題、無署名の彩色図譜です。植物図一三〇図、鳥図四図からなります。植物図一〇五図にはアルファベットで植物の現地名を書き込み、そのうち七図には、京都の蘭学者辻蘭室の筆跡で、蘭文の解説とその和訳が付いています。図はすべて蘭学者宇田川榕菴の模写です。シールボルト来日（一八二三）の五年前に二人が京都で作成したと推定されます。



©Kanda Sano Library, KUIS.

原著者のスペイン人植物学者フランシスコ・ノローニャは一七八六年四月一五日に、マニラからバタヴィアに到着し、九月五日から旅行にでかけ、同八日―二八日ボイテンブルグ (Buitenzorg) を訪問。西ジャワ各地を訪れた後、一二月頃にバタヴィアに戻りました。

この旅行中にノローニャが作成したジャワ植物図譜は、ロンドン写本 (Natural History Museum 所蔵)、パリ写本 (Muséum national d'histoire naturelle 所蔵)、ノローニャ自

筆) とベルリン写本 (Staatsbibliothek zu Berlin 所蔵) し  
か知られて来ませんでした。昨年一〇月に発見されたこの写  
本は、植物図一〇五図がロンドン写本とよく似た配列順序と  
なっていることが分かり、共通の元本が想定されます。

この写本は京都の宮中で代々、天皇印璽などを公文書に捺  
印したり、宮中行事の世話をする地下官人の家に伝わったも  
のですが、雲母入りの厚手の大型高級和紙を使用していると  
ころから、旧蔵者は公家と推定されます。

植物図の最初四図は高級和紙に直接描かれていますが、第  
五図以降は薄い雁皮紙に図を描き、貼り付けています。雁皮  
紙には丁数と表 (オ記号)、裏 (ウ記号) が付けられており、  
和綴じの図譜からの模写と分かります。この写本に多用され  
る部分彩色の手法から、本写本の親本 (和綴じ本) は、京都  
の本草学者小野蘭山の手になる可能性が高いと判断されまし  
た。

## 9 彩色ジャワ植物図譜 ラスサマルラ図 (複製)

「ラスサマルラ」は *Altingia excelsa* Noronha (和名:  
ラサマラノキ)。フウ科の常緑高木。

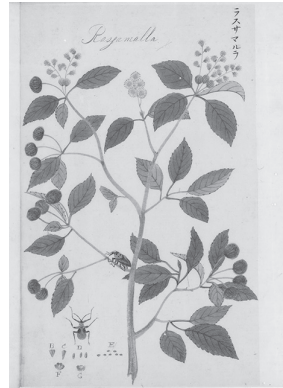


彩色ジャワ植物図譜  
文 辻蘭室筆（複製）

ラスサマルラ図 蘭文解説の訳

（翻刻）ラスサマルラ

曆数一千七百八十六年十月十四日、爪哇国ポンデユクキイといへる所の山址に於て、此樹の大なるものを見たり。其周圍大なること大伽藍の如く、数十丈量べからず。岑々として雲中に聳へ、其樹の正直なること梢より垂準を下たるが如し。周木枝条なく、樹の頂に葉聚り、叢生して円形を成し、其繁茂綿密なること宛も作り成せるが如して、衆鳥爰に栖宿す。土俗これを奇木とす。爰に図するは其嫩枝、花実満盛のものなり。雌雄の二種あり。紫花なるものを雌とし、黄花なるものを雄とす。黄花は枯落して実を成さず。雌木は子実を結ぶ。Gは実なり。中にBの双核あり。Cは其一核なり。Dは核中の仁



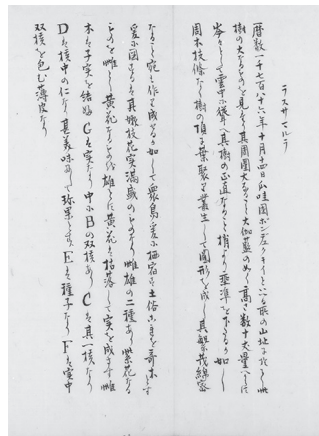
©Kanda Sano Library, KUIS.

彩色ジャワ植物図譜 ラスサマルラ図 蘭文解説

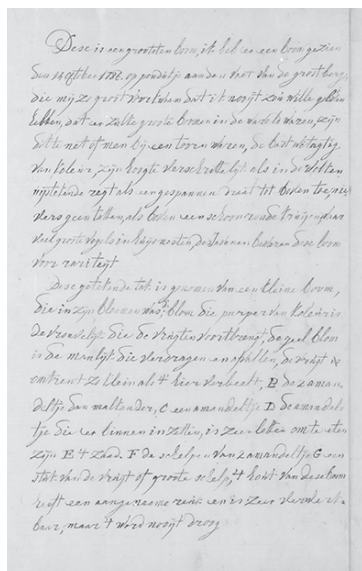
（「ラスサマルラ」逐語訳）

これは巨木である。その一本を1808年10月14日ポンデユクキウの高山の麓で見かけた。目の前に現れた大きさといったら、この世にこれほど大きな木があらうとは信じられないほどだった。その太さはまるで塔の側にいるようだった。樹皮は白色がかっていた。恐ろしいほどの高さは、まるで雲の中に糸を天辺までまっすぐに張ったようで、脇に一枝もなく、沢山の太鳥が巢作りをする見事な丸い樹頭のようなだった。ジャワ人はこの木を珍木と

なり。甚美味にして珍果とす。Eは種子なり。Fは実中の双核を包む薄皮なり。



©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.

して大事にしている。  
ここに描いた枝は開花した小ぶりの木から切り取ったもので、赤紫の花は実を付ける雌花であり、黄色の花は交配が終わると落下する。実は大抵ここに図示したように小さく、Bは二重の実、Cは一重の実、Dはその中の実で、大変美味しく食べられる。Eは種子、Fは二重の木の皮、Gは皮の付いた実の全体である。この木の材は気持ちの良い香りがあり、刺激的であるが、いつも乾いていない。

[Rassamalla]

Deze is een grootsten boom, ik heb 'er een boom gezien den 14 october 1786. op pondukje aan den voet van de groot berg, die my zo groot voorkwam dat ik nooyt zou wille geloven hebben, dat 'er zulke groote bomen in de wareld [sic] waren, zyn ditte net of men by een toorn waren, de bast witagtig van koleur, zyn hoogte verschrikkelyk als in de wolken uystekende [sic] regt als een gespannen draat tot boven toe, nievers [sic: nevens] geen takken, als boven een schoon ronde kruyen [sic: kruyn], waar veel groote vogels in huys nesten, de Javanen bewaren deze boom voor rareteyt.

Deze getekende tak is genomen van een kleine boom die in zyn bloemen was; bloem die purper van koleur is de vrouwelyk die de vrugten voortbrengt, de geel bloem is de manlyk die verdragen en afvallen, de vrugt is omtrent zo klein als 't hier verbeelt, B de 2 amandeltje dan malkander, C een amandeltje D de amandeltje die 'er binnen inzetten, is zeer lekker om te eten zyn. E 't zaad, F de schelpen van 2 amandeltje, G een stuk van de vrugt of groote schelp, 't hout van deze boom heeft een aangename reuk en is zeer verwerkbaar [sic], maar 't word nooyt droog.

12 那波列翁再興軍記 (オランダ語写本 蘭書抜粋録 第二冊所収)

書写者不明 文久年間 (一八六一〜六三) 成

この写本「蘭書抜粋録」(三巻三冊)は文久年間の成立と推定されます。百科事典、年鑑、物理・化学・数学の教科書、植民地論、世界史、戦記、外科書、内科書、薬学書、薬化学雑誌など一五点に及ぶ蘭書からの抜粋です。この抜粋の作成者は確定できていません。蘭学から英字への歴史的転換点においてもなお、学術知識と海外情報を蘭書によらざるを得なかった時代の貴重な証言です。

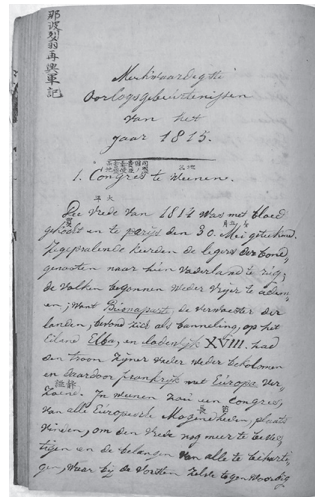
第二冊所収の「那波列翁再挙軍記」は一八一六年に刊行された「一八一五年戦役要録」とでも訳すことの出来るオランダ語小冊子 (Merkwadigste oorlogsgebeurtenissen van het jaar 1815) の全一四章 (第一章ウィーン会議〜第四章ワーターローの戦い) を筆写したものです。この小冊子はもとと、一八一五年ナポレオン戦役の各場面を描いた小円形の彩色銅版画七枚 (両面印刷) の解説冊子としてオランダで出版されました。

ロシアの南下に対抗して幕府は一八〇七年から蝦夷・北方地域の地理調査、ロシアを中心とする海外事情調査に取り組みます。幕府天文台に置かれたその調査部局の責任者が天文方高橋景保でした。伊能忠敬の測量、日本地図作成の監督も

景保の仕事でした。

文政九年丙戌 (一八二六) 三月、商館長ストウルレルと商館付き医師フォン・シーボルトが江戸参府にやってきました。景保はこの絶好の機会を逃さず、ストウルレルから聞き出したヨーロッパ情勢を同年四月「丙戌異聞」にまとめました。

聞書による情報を確認するため、関連文献を探索したところ、將軍家侍医の桂川家に、ナポレオン戦役銅版画の周囲に解説冊子の本文を貼交 (はりまぜ) したものがありません。それを同年七月に天文方高橋景保が蘭学者青地林宗に訳させたのが、我が国最初のナポレオン伝『別埒阿利安設戦記』です。



©Kanda Sano Library, KUIS.

13

一八一五年ナポレオン戦役銅版図・記念メダル  
書物型ケース入 解説小冊子『一八一五年戦役要録』  
(Merkwaardigste oorlogsgebeurtenissen van het jaar  
1815. n.p. n.d. [c. 1816]) 共

神田佐野文庫の新収資料です。この夏、購入されたばかりです。銅版図・記念メダルが解説小冊子と一緒に、書物型ケースに収められています。ケースの表紙には、下半身鼠の哀れなナポレオンが同盟軍兵士に取り囲まれ、銃剣で突かれている姿が描かれています。全ヨーロッパを巻き込んだナポ



©Kanda Sano Library, KUIS.

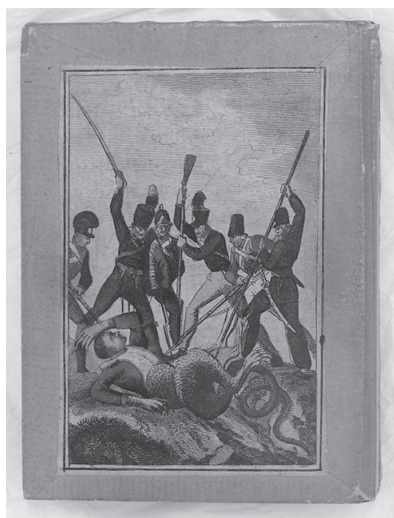


©Kanda Sano Library, KUIS.

レオン戦争は一八一五年六月、ワートルローの戦いで、ナポレオンが敗北し終局を迎えました。戦勝国側からすれば、ナポレオンは暴君、平和の敵、国際的犯罪人でした。

解説小冊子は青地林宗訳『別掲アリアンセ戦記』(一八二六)の典拠です。「ベレアリアンセ」は戦場ワートルローにあるフランス語の農場名「ラ・ベル・アリアンセ」(La Belle Alliance、麗しき同盟の意味)をさします。ナポレオン軍を破った同盟軍は、ワートルローの戦いを好んで「ベル・アリアンセの戦い」と呼びました。

銅版画は直径約5cmの小円形七枚からなり、朱色のリボンで連結されています。両面印刷、手彩色です。



©Kanda Sano Library, KUIS.

蛇腹式に重ねて、錫製のネジ蓋式メダル（メダイヨンと呼ばれています）に収められています。表と裏、計一四場面は1〜14の番号が付けられ、小冊子（全14章）の各章に対応しています。『別掲アリアンセ』の章題は次のようです。ただし、第十三の「ポストレス。クワテレブラス」はオランダ「王子」の「幼名」ではなく、Post les Quatres Bras（カトル・ブラ陣地）の間違いです。

#### 第一 勿能ワエナの会

第二 ボナバルテ「エルバ」島を逃げ払郎察を襲ふ事

第三 「ラクシヨベルロ」橋頭の合戦

第四 独乙都の兵那波里に乱入す

第五 「ベルレアルリアンセ」名地に於て「ブルセル」「ウェ

リングトン」人名の勇戦

第六 払郎察兵の引口

第七 「ウレーデ」王の兵「サルゲムンデン」「サル

ブルゲン」を攻取る事

第八 魯西亞の軍カロンス」府に乱入す

第九 同盟の諸軍把理斯に入

第十 ボナバルテ諸厄利亜人に投ず

第十一 独逸都「フニンゲン」城を抜く

第十二 「シントヘレナ」島

第十三 和蘭の王子「ポストレス。クワテレブラス」名幼

「ベレ。アリアンセ」名地に於て勇戦

第十四 ベレアリアンセ府

小冊子の第一章を試みに訳してみましよう。ナポレオンは勝利者同盟軍の立場から、平和の敵、破壊者として描かれています。

#### 1. ウイーン会議

一八一四年の和平は血であがなわれ、五月三〇日パリ条約が結ばれた。同盟諸国の軍隊はそれぞれの祖国に凱旋した。諸国民は自由の息吹を取り戻した。なぜならば、諸国の壊乱者ボナバルトはエルバ島に流刑の身となり、ルイー八世は再び父祖の王座に就き、それによつてフランスをしてヨーロッパと和解させたからである。ウィーンでは全欧列強会議が開かれることとなった。各君主自らが出席し、平和をさらに強固なものとし、各国の権益を強化するためである。この華々しい会議は一八一四年秋に催された。ロシア皇帝とプロイセン国王は九月二五日にウィーンに入城した。この日、参加者の数は実に一万人の多数に達し、一堂に会することができず、夜は野営しなければならなかった。バイエルン、ヴェル

テンベルク、デンマークの諸王はこの数日間にウィーンに到着し、君主や高貴なる賓客の数は日に日に増加した。十一月一日、パリ平和条約に署名した全権公使が各自の全権委任状の交換を始め、会議が開かれた。相互の権益に関するこの平和的協議は、この間、とても僅かの月日ですむ仕事ではなかった。全員が満足する必要があるたのである。まさに、万事終了しようとしていたとき、ボナパルトのエルバ島脱出とフランス侵攻が交渉を頓挫させた。君主たちは平和の永遠の敵とその追従者たちをとともに殲滅しようとして一致団結し、今やその試みが広がっている。戦争の早鐘が引き鳴らされ、講和の作業は、より静穏な日々まで延期されたのである。

『別埒阿利安設戦記』の第一章は次の通りです。大意は捉えられています。

# 第一 勿能の会

千八百十四年<sup>元化十</sup>第五月三十日、同盟諸国の軍既にボナパルテを把理斯に討て之に捷ち、凱旋し彼を執へて「エルバ」島<sup>意太里</sup>に流竄し、「ローデウエーキ」第十八世王を再その国王に即かしめ、諸国始て払郎察と和睦し、諸国の軍士各本国に帰り、万民安堵の思をなせり。さて此

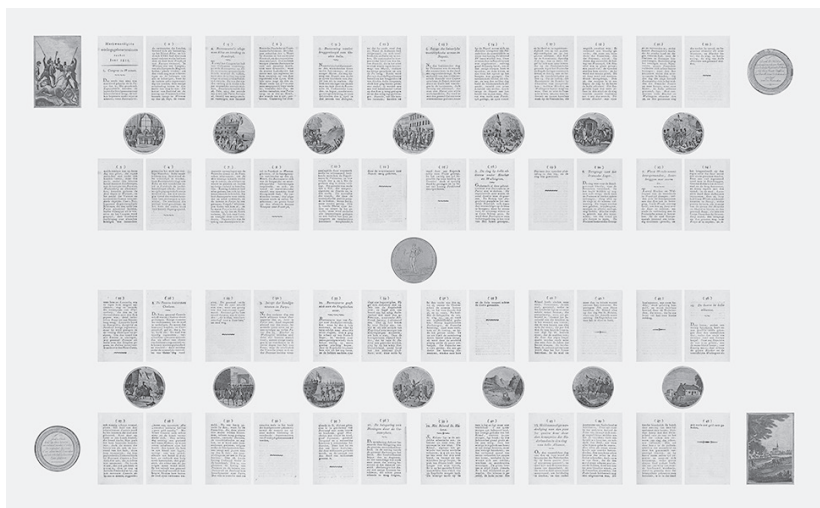
年秋、同盟の諸王侯<sup>ウエーグ</sup>勿能に会集して猶和平の盟約定議すべしとて、九月二十五日にハ魯西亜帝、<sup>プロイセン</sup>李漏生王勿能に至れり。其衆都て一万人に余り旅舍するに所なし。野陣を張りて之に<sup>やじ</sup>舍す。又「バイエレン」の女王、「ウエルゲンブルグ」<sup>同共他諸王</sup>及び第那瑪尔加等の王侯も来会し、十月一日已に諸国の執事集りて評議はじまりける。元此会議ハ欧羅巴中にかゝる大事なれば、数月を経るに非れバ議定すべしとは思ハざる所に、卒にボナパルト<sup>にわむ</sup>彼配所を遁れ出て、兵を募りて把理斯を襲ふの風聞ありて、会議ハ中バに廢し、同盟の諸国再び軍を引て、彼敵を討べしとて陣鐘打て此会議ハ後日に延べられたり。

## 14 一八一五年ナポレオン戦役銅版図貼交<sup>はりまを</sup> (複製)

天文方高橋景保が青地林宗に訳させた官医桂川家の原文は、高橋の後記によれば、「和蘭人近時揆乱反正の盛を紀して其世子奮戦<sup>まわり</sup>の週に掲鏤せしもの」で、「蓋彼が功烈を後世に輝さんと」するものでした。この貼交<sup>はりまを</sup> (複製) は下線部の指摘に基づいて、試作したものです。

当時の桂川家当主は桂川甫賢でした。甫賢はシーボルトと交流を深め、本草学に詳しくオランダ語にも秀でていました。すでに商館長ヘンドリック・ドゥーフから Botanicus (植物学者の意) の名をもらっていました。この貼交によつ





©Kanda Sano Library, KUIS.

て、甫賢の手元にあった「一八一五年ナポレオン戦役銅版図」の姿を想像することができると思います。

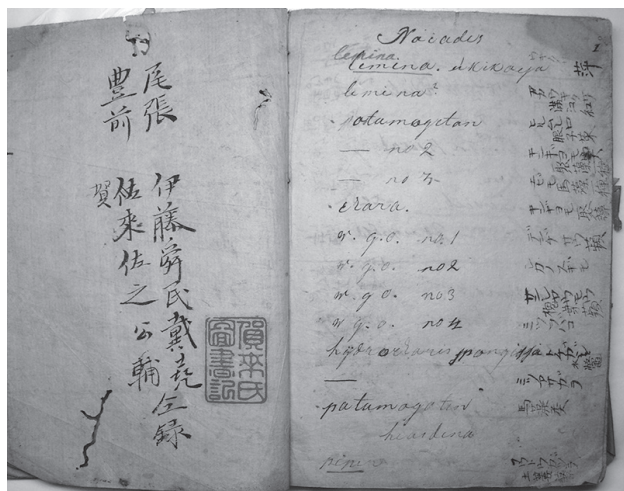
# 15 Naamlijst van Japansche gewassen (日本植物目録)

書写者不明 フィリップ・フォン・シーボルト著 伊藤圭介・賀来<sup>ゆき</sup>佐之<sup>すけ</sup>録 一冊

出島医師シーボルト（一七九六〜一八六六）は門人伊藤圭介（一八〇三〜一九〇一、名古屋生まれ）が出島に持ち込んだ一六〇〇種以上の植物標本をもとに、圭介とその兄弟子賀来佐之、佐一郎、一七九九〜一八五七、豊後高田生まれ）の協力を得て、文政一〇年（一八二七）九月九日から一年余りの間、「日本植物目録」の完成をめざしました。この写本は賀来佐之が手元にあった同目録の写本を他人に貸して失くしてしまったため、景介がのちに佐之に贈ったものです。

右袋綴じ。六二丁。ラテン語の学名に和名（片仮名書き）をあてたアルファベット順日本植物名集です。前表紙に題簽（左）の剥離した跡が残ります。前表紙見返しに「Naamlijst / van / Japansche / gewassen」（日本植物目録の意）と伊藤圭介が朱書、また、一オに伊藤圭介が「此写本追々板行仕候得共／猶誤字多シ名疏等二而／相分りし分ハ御訂正可被致候」と朱書しています。「名疏」とは景介の翻訳『泰西本草名疏』をさします。





©Kanda Sano Library, KUIS.

本文は後表紙を開いた遊紙（第六二丁）の次から始まり、六一ウから一ウまで1123の算用数字でページ付けを墨書しています。その遊紙裏（六二ウ）に、伊藤圭介が「呈／公輔賀来盟兄／緒鞭畔／尾張 伊藤舜民／拜具／辛卯榴夏十又一日」と朱書していることから、圭介が天保二年（一八

三二）五月二一日付けで本写本をシーボルト門下の兄弟子賀来佐之（佐一郎）に贈呈したことが分かります。また遊紙表（六二オ）に伊藤圭介筆で「尾張 伊藤舜民戴堯／豊前 佐来佐之公輔／全録」と墨書。その脇に「賀来氏図書記」印（朱文長方印）が捺されています。

この写本のなかに、一通のオランダ語書簡が折り畳んで挿入されているのを、二〇一四年二月に本学の町田明広先生が発見されました。

## 16 フィリップ・フオン・シーボルト自筆書簡

賀来佐一郎（佐之）宛て 出島にて 一八二八年

これが、11 Naamlijst van Japanische gewassen（日本植物目録）に挿入されていた書簡です。洋紙（一五七mm×二〇一mm）の両面にペン書きされています。伊藤圭介が文政一〇年（一八二七）九月九日から半年あまり滞在して長崎を去ったあと、シーボルトはもっぱらサイチこと佐之が頼りでした。一八二八年六月一八日までに、学名と和名の欄はほぼ完成したようです。その後、漢名を付ける作業の途中でサイチが突然、帰国すると言い出したため、シーボルトは急いでこの督促状を書き送ったのです。

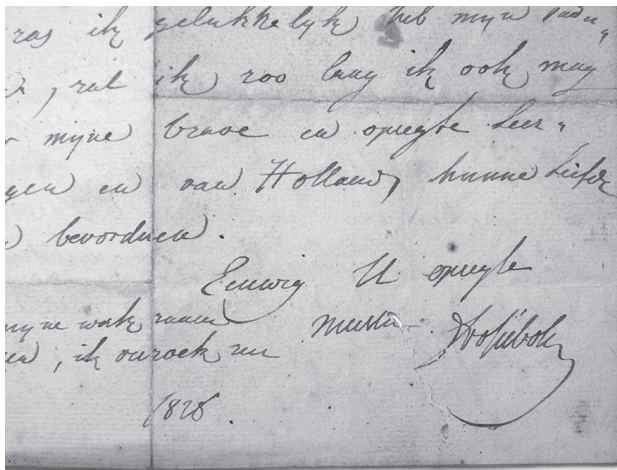
この書簡により、シーボルトの日本植物研究の実態と賀来佐之の知られざる貢献が明らかになりました。シーボルト事

件の発端となるコルネリス・ハウトマン号の座礁（一八二八年九月一七日）以前に書かれたものでしょう。

友人サイチ（賀来佐之）へ

立派な教え子たち、とりわけ貴殿にももう会えなくなるのは悲しい限りです。貴殿がまもなく出発すると聞きまして、この手紙を送ります。植物目録はノート一四冊分を受け取りましたが、どうか努めて目録を完成させるようにして下さい。他のノートはどこにあるのでしょうか。私がすべての文字（漢字・仮名）を理解できるようにした解説はどこにありますか。遣いの者に委細を話して、彼に渡して下さい。また、イ・ケイスケ（伊藤圭介）の植物学辞彙の改訂稿を私の手に渡すよう、確かな人に送って下さい。約束した薬とバタヴィアの植物は誰か友人に託しますので、貴殿は間違いなく受け取れるはずです。

これまで大変お世話になり、誠にありがたく感謝致します。（貴殿のことは）決して忘れませんのでご安心下さい。幸いにも祖国を再び見ることができたら、すぐに、そして命のある限り、立派で忠実な教え子たちのことを思い、オランダの地から、学問に対する彼らの情熱を促進するようにします。



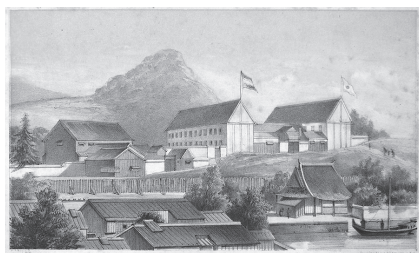
ras ik gelukkiglyk heb myn vader  
en, ras ik roo lang ik ook myn  
myne braver en oprechte leer-  
ger en oar Hollands hante hieft  
) bevoordene.  
Eenwig ik oprechte  
myne wate raanen  
en, ik overoek een  
1828

©Kanda Sano Library, KUIS.

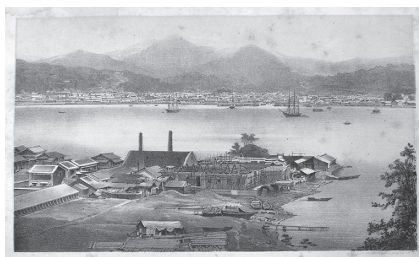
深い友情からのお願いです。私の仕事を終える前に出発しないように。

永遠に貴殿の誠実なる師  
一八二八年

フォン・シーボルト



©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.

17 ポンペ・ファン・メールドルフオールト著

『日本滞在記（一八五七〜六三）』

一八六七—六八年 ライデン刊 二巻

第二巻口絵（カラー石版） 長崎病院（「養生所」） 一八

六一年九月一日開院

オランダ人軍医ポンペ・ファン・メールドルフオールト（J.L.C. Pompe van Meerdervoort）はオランダ政府の支援のもとに行われた長崎海軍伝習の教官の一員として、一八五七年一月二日（安政四年九月二十六日）に来日しました。文久二年九月一〇日（一八六二年十一月一日）に帰国するまで

の五年間、長崎で、日本人医学生に基礎科学を重視した日本最初の組織的な近代医学教育を行ったことで知られています。その拠点となったのが長崎養生所（病院）です。

ポンペの指導を受けた医学生の中から、佐倉出身の松本良順（のち陸軍医総監）と佐藤尚中（舜海、佐倉順天堂第二代堂主、のち東京大学医学部のルーツ、大学東校の初代校長）の二人は抜群の成績を収め、ポンペから信頼されました。

本書第一巻（一八六七）の口絵には、一八六一年五月四日、養生所よりも一足先に、オランダの協力で長崎村上の鮑浦<sup>あう</sup>に完成した製鉄所（艦船修理のための造船所）のカラー石版が飾られています。長崎の養生所と製鉄所は幕府の近代化政策を支援したオランダの対日政策の成果を代表するものでした。

18 朋氏<sup>ぽんし</sup>解体書<sup>かいたいしよ</sup>（ポンペ・ファン・メールドルフオールト解剖学講義録）

全五冊（仁義礼智信） 越前勝山藩医学生 秦朴仙（朴三郎）筆 文久三年（一八六三）三月一日 佐倉順天堂医学塾において写し終わる

若林正治コレクションには「朋氏解体書」と題する五冊のオランダ語写本があります。左袋綴じ。第一冊（五六丁）、

第二(八九丁)、第三冊(四三丁)、第四冊(七一丁)、第五冊(九七丁)、計三六五丁からなります。各冊の小口書きは第一冊から順に「解体及骨」「解帶及筋」「解諸脉」「解腦及神」「解内臓」とあり、第三冊には前表紙に「No. 15」のラベル、また題簽左の貼紙「ホン(剥脱部分)写本」に不明の割印(朱文円印)があります。各冊の題簽には儒教の五常、仁義礼智信が配されています。「医は仁術なり」の言葉で知られているように、江戸時代の医師は医の倫理を儒教に求めました。儒者も医学を生計の道とする場合が多く、儒医と呼ばれていました。医学を儒教道德の実践と位置づけたわけです。

各冊の構成を題簽と原文で示せば、以下の通りです。

第一冊(仁)： 朋氏解体諸骨論

Ontleedkunde. Algemeene beschouwing.

Bijzondere Beenderen Leer (osteologia).

第二冊(義)： 朋氏解体紐帶諸筋論

Leer der banden (syndesmologia) en het

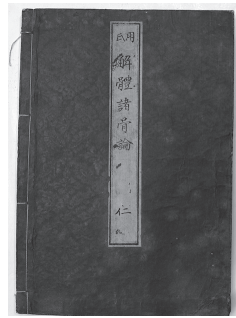
vezelstelsel (systema fibrosum). Leer der spier

(Myologia).

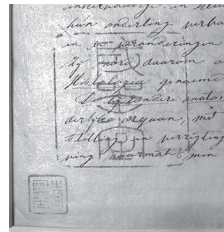
第三冊(礼)： 朋氏解体諸脈管論

Leer der slagaderen. Leer der watervaten.

第四冊(智)： 朋氏解体脳及神経論



©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.

Leer van het zenuwstelsel.

第五冊(信)： 朋氏解体内蔵諸器論

Leer der ingewanden.

第五冊(信冊) 末尾に、「Einde Desima 27 dec: / 1857 / (bokan) ik heb deze beschrijving / in bokuw 3 miznot i / jaar 3<sup>o</sup> maand 1<sup>o</sup> dag / beschryven (不明サイン)」とのイン書きがあります。

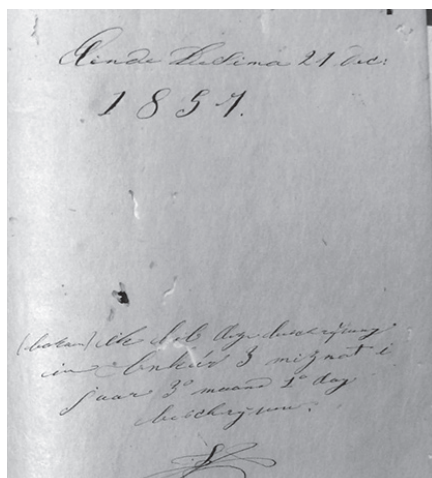
前半は「一八五七年二月二十七日出島にて 終わる」の意味で、ボンペが原本を書き終えた日を記しています。後半は「文久三癸亥三月朔日写之」の意味です。「(bokan)」は書写した勝山藩医学生秦朴仙(朴三郎)の号「朴庵」<sup>はくあん</sup>と思われるます。第二冊には「一八六十年／朋氏解剖韌帶篇／秦朴仙」と墨書しています。

各冊に勝山藩藩校「成器堂」の蔵書印(朱文方、五〇・五

mm四方)、「第二大学区第二十八中学区第九十四番成器小学」印(朱文方印)「福井県内務部第三課」印(朱文方印)が捺されています。

成器堂は天保一四年(一八四三)設立の勝山藩藩校。初代学頭は秦魯齋(隠居後、魯仙、文久三年九月一三日没、五四歳)。「春鉢堂」印は本文庫の洋学資料を収集した京都の古書店主若林正治の蔵書印です。

秦魯齋の三男、朴仙(朴三郎)は安政三年九月から同五年にかけて佐倉順天堂の佐藤舜海(尚中)のもとに留学した長兄の勤有から、文久元年に佐藤塾へ派遣され、慶應元年九月

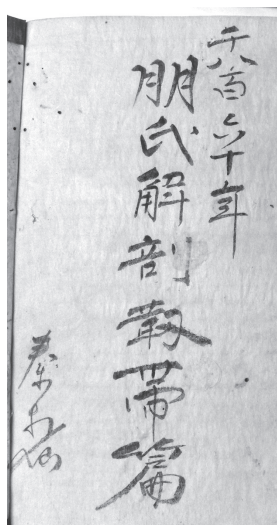


©Kanda Sano Library, KUIS.

まで舜海のもとで医学を学びました。

舜海は万延元年二月二三日(一八六一年二月二日)から文久二年(一八六二)一月下旬まで、長崎のポンペのもとで学び、同年三月一日佐倉に帰着しました。それから約一年後の文久三年三月一日に、門人の秦朴仙が舜海の許しを得て、ポンペの解剖学講義録を写したことになります。

朴仙は慶応元年九月に帰藩後、兄の家督をつぎ、勝山藩医となりましたが、翌慶応二年八月二八日に病死しました。朴仙が佐倉順天堂からもたらし、藩校成器堂に納めたポンペ解剖学講義録五巻には、さきほど述べたように儒教の根本道徳、仁義礼智信の五常が配されています。成器堂は父の儒医魯齋が私財をなげうってその基礎をつくり、天保一四年(一八四三)に開学した藩校でした。佐久間象山はペリー来航以来、攘夷論に反対して、儒教主義に立つ西洋科学技術摂取を

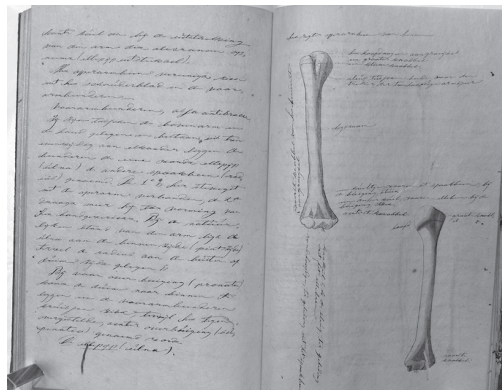


©Kanda Sano Library, KUIS.



主張し、「東洋道德、西洋芸術」<sup>⑨</sup>を唱えました。この写本にも同様の考えが現れていると思います。

ポンベの解剖学講義録オランダ語写本は従来、順天堂大学所蔵本だけが知られていました。越前鯖江藩医土屋寛之の旧蔵本です。土屋は文久二年五月に佐藤舜海に入門しました。土屋本には書写した年月日の記載がありません。実は秦朴仙と土屋寛之は従兄弟同士です。しかも同時期に佐倉順天堂に在塾していました。両写本は同時期の成立と考えられます。



©Kanda Sano Library, KUIS.

両写本は、長崎から佐倉、佐倉から越前へと、西洋医学知識が地方へ伝播したことを実証する資料として大変貴重です。

### 三、英学資料

若林正治コレクション英学資料六九五点から、幕末・明治前半期の英文法書、英会話書、綴字書、読本、単語帳、および文明開化関係書、あわせて二二点を選びました。<sup>⑩</sup>印刷史上、大変貴重な資料もいくつかあります。

幕府に先駆けて宇田川家が英文法書を出版したこと、官版（幕府刊行書）あるいは準官版が民間で、また地方で復刻を通して普及したことは注目すべきことです。

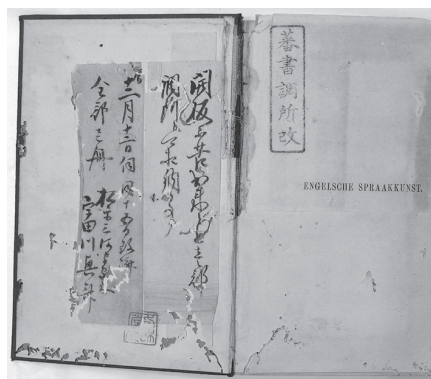
明治初期は寺子屋教育や漢学教授法を基礎にして、図解<sup>えとび</sup>が活用されました。

根強い伝統的な生活文化・文字文化と新文化の接触・拮抗・融合、社会の変容を垣間見ることもできます。

### 19 ヴェルガー二原著 簡約英文法 蘭語版第二版 アムス

テルダム 一八五三年刊

Angelo Vergani & Johannes Olivier. *Engelsche spraakkunst, vereenvoudigd en tot een-en-twintig lessen gebracht door Vergani. Omgewerkt voor de Hollandische*



©Kanda Sano Library, KUIS.

*scholen, door J. Olivier, Joh. Z<sup>n</sup>. Tweede uitgave, Amsterdam, H. J. Van Kesteren, 1853. (4), 190. (4) pp.*

本書の前表紙見返しに「辰十二月十二日伺同月十五日改済／全部巻冊 松平三河守家来／宇田川興斎」と墨書した貼紙、また「開板不苦出来候者老部調所江可相納事」（開版苦しからず。出来候わば一部、蕃書調所へ相納むべき事）と墨書した出版許可の貼紙があります。「辰十二月」は安政三年（一八五二）十二月にあたります。

ハーフトタイトルページに「蕃書調所改」印（長方黒印）が見え、この年一一月に発足したばかりの幕府の洋学研究機

関、蕃書調所が本書の翻刻出版許可を津山藩医宇田川興斎に与えた経緯を示す貴重な資料です。興斎は美濃大垣の医師飯沼慾齋の三男に生まれ、宇田川榕菴の養子となり宇田川家を継ぎました

本書第一八課（Achtende Les）の始まる本文 p.106 には「以下未タ出来不申候」との墨書した付箋が挿入されています。

## 20 英吉利文典 上

ヴェルガーニ原著 和刻本 安政四年（一八五七）宇

田川氏蔵梓 醍醐忠順旧蔵書

蕃書調所の出版許可を得た宇田川興斎が本書を翻刻出版しました。書誌は次の通りです。（1）+ 57丁。題簽（中央）「英吉利文典 上」。小口書き「英吉利文典 上」。前表紙見返し「安政四年丁巳新鐫（朱印：上軼）／ENGELSCH SPRACHKUNST 英吉利文典／美作 宇田川氏蔵梓（印：菩薩楼）」。

原書の冒頭、標題紙から第一七課の英作文（Zeventiende oostd.）の末尾（p. 106）までを整版で復刻しています。標題紙に「忠順珍賞」印（白文方印）と「醍醐蔵書」（朱文方印）があります。旧蔵者の醍醐忠順は公家出身で、明治新政府参与、大阪裁判総督を経て、初代大阪府知事になった人で



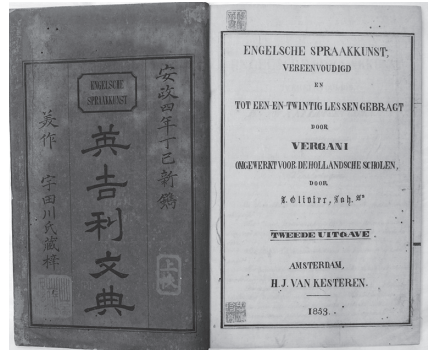
す。

21 伊吉利文典 千八百五十年版

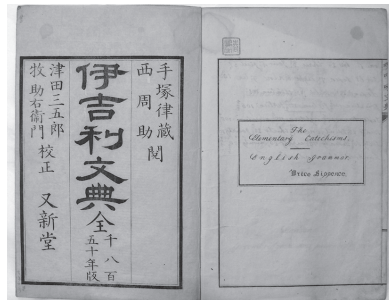
The Elementary Catechismus. English Grammar.

和刻本 手塚律蔵・西周助閼 津田三五郎・牧助右衛門  
校正 安政六年（一八五九）頃 又新堂刊

木版・英語版の英文法書としては、日本最初の出版です。  
書誌は次の通りです。四七丁。題簽（右）The elementary catechisms. English grammar. London, Groombridge & Sons, 1850. の復刻。整版。前表紙の前小口寄りに題簽「伊吉



©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.

した。西周助のち西周は手塚の門人です。

第一葉表は匡郭内に題簽様式の枠を設け、中に「The / Elementary Catechisms. / English Grammar. / Price Sippence.」と、第2葉の標題紙は「The / elementary catechisms. (line) / English / Grammar. / (line) / London. / Groombridge & sons paternoster row.」と印刷してある。最終丁四三ウの下段、ラインの下に「Groombridge and sons. paternoster Row.」と印刷。書き入れ（オランダ語注）多く、19オに薄青色の挿入紙片があります。

利文典 全」。見返しに「手塚律蔵・西周助閼／伊吉利文典 全 千八百五十年版／津田三五郎・牧助右衛門校正 又新堂」。

手塚律蔵は周防出身の蘭学者です。嘉永四年（一八五二）に佐倉藩に抱えられ、同六年に江戸で蘭学塾又新堂を開きま

# 22

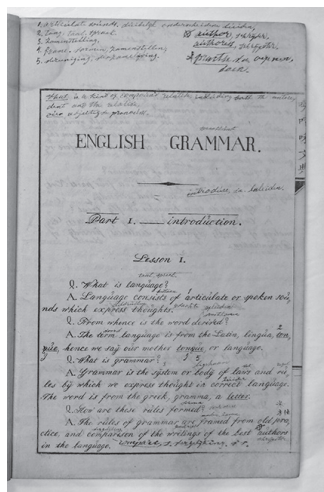
英米対話捷徑

中浜万次郎著

安政六年（一八五九）九月

知彼堂蔵版

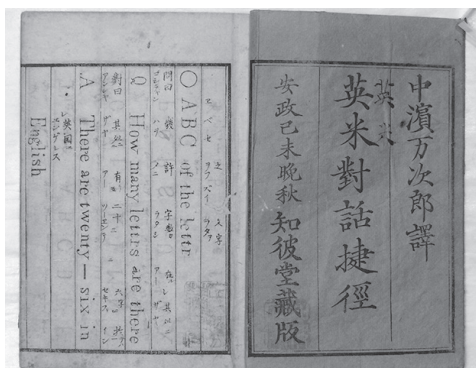
木版



©Kanda Sano Library, KUIS.

土佐宇佐浦の漁師万次郎は天保一二年（一八四一）、一四歳で漂流し、助けた米国捕鯨船長ホイットフィールドの支援によりアメリカで教育を受けました。一〇年後の嘉永四年（一八五二）、琉球をへて鹿児島に上陸し、翌年土佐に帰国しました。そのアメリカ仕込みの英語力と航海術などの技術、豊かな海外知識によつて、薩摩藩、土佐藩、幕府、明治政府に重用されました。

万次郎の著したこの会話書は、綴字によらない、実践的な話し言葉の発音を教えようと苦心しています。当時の文字中心の英語学習書のなかで異彩を放っています。その一端を示しますと、以下の通りです。



©Kanda Sano Library, KUIS.

かなへるか あなた 言ひ いきりすことはを

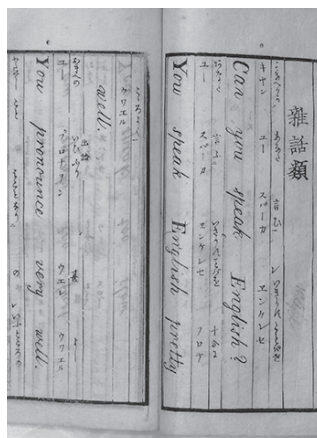
キャン ユー スパーカ エンケレセ

Can you speak English?

あなた 言ふ いきりすことはを 十分に

ユー スパーカ エンケレセ フロテ

You speak English pretty



©Kanda Sano Library, KUIS.

ころよへ

ウワエル

well.

おまへの いひぶり 甚 よし

ユー プロナラン ウエレ ウワエル

You pronounce very well.

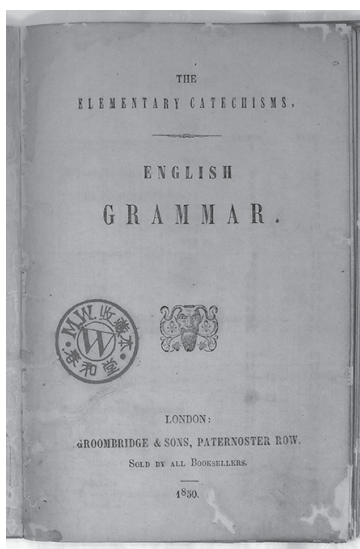
23

英吉利文典 The Elementary Catechismus. English

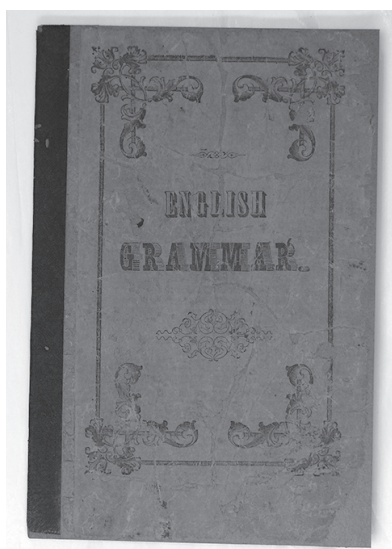
Grammar. 1850.

文久元(1861)年頃 幕府(蕃書調所)復刻

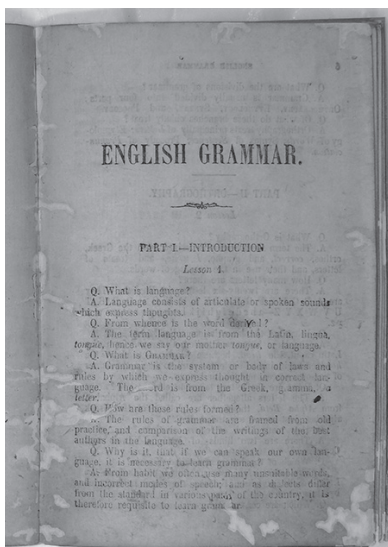
日本最初の活版・英語版英文法書です。The elementary catechisms. English grammar. London, Groombridge &



©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.

Sons, 1850. を複製したものです。

すこし詳しく書誌を見ましょう。鉛活字版。薄葉紙の両面に印刷。前表紙、後表紙ともに四隅に唐草模様のある枠を印刷し、表表紙の枠内には影付きの文字で「ENGLISH GRAMMAR.」と飾り模様を配す。後表紙の枠内中央には別種の飾り模様を置く。ハーフタイトルページ無し。

標題紙「THE / ELEMENTARY CATECHISMS. / (line) / ENGLISH / GRAMMAR. / (fig.) / LONDON: / GROOMBRIDGE & SONS, PATERNOSTER ROW. / SOLD BY ALL BOOKSELLERS. / (line) / 1850.」

頁付けは pp. [I-III], IV, [5]-6, (2 leaves lacking) 11-58,

[59] 63. (1 blank) となっており、最終頁 p. 63 は本文行末の余白に cul de lampe と「アンフォラ図」を配し、最下段にラインを介して「GROOMBRIDGE & SONS, PATERNOSTER ROW」と出版社とその所在地を印刷しています。

遊紙の表に「木内 200 快哉」の鉛筆書き入れと「春和堂 / 19314 / 若林書店」の円印（朱）があります。これは若林正治が昭和一四年三月一四日に、本郷の木内書店で二円で購入したことを記したものです。遊紙の裏に「芦野」印（朱文楕円印）。標題紙に「M.W. 収蔵本・W・春和堂」印（朱文円印）。p. 63 に「春和堂蔵」の印があります。

帙紙簽に「木の葉文典」の墨書と判読不能の連印（白文方印）があります。また、挿入付箋に「木の葉文典 丙戌三月秋神道人題（印：會）（印：朔）」との墨書と連印、および「春和堂蔵」印があります。

「丙戌三月」は昭和三三年（一九五八）三月です。これらの墨書と連印は、この月、若林が京都伏見の蔵元「月の桂」の当主増田徳兵衛邸で、歌人・美術史家の会津八一に書いてもらったものです。

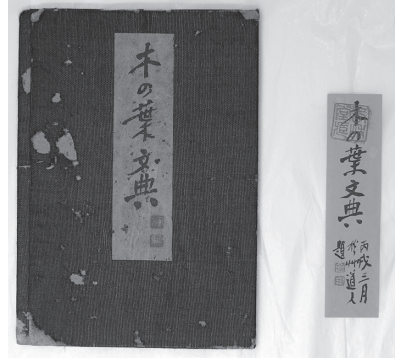
「木の葉文典」の呼称は大槻文彦「和蘭字典文典の訳述起源」〔『復軒雜纂』1902〕に由来します、大槻がこの呼称を用いた文典は本書 The elementary catechismus でなく、蓄

書調所が刊行した別の入門書 Familiar method for those who begin to learn the English language. Yedo. At the first year of Maneng [1860]. やす。本書 The elementary catechisms を最初に誤って「木の葉文典」と呼んだのは荒木伊兵衛『日本英語学書志』（一九三二）でした。

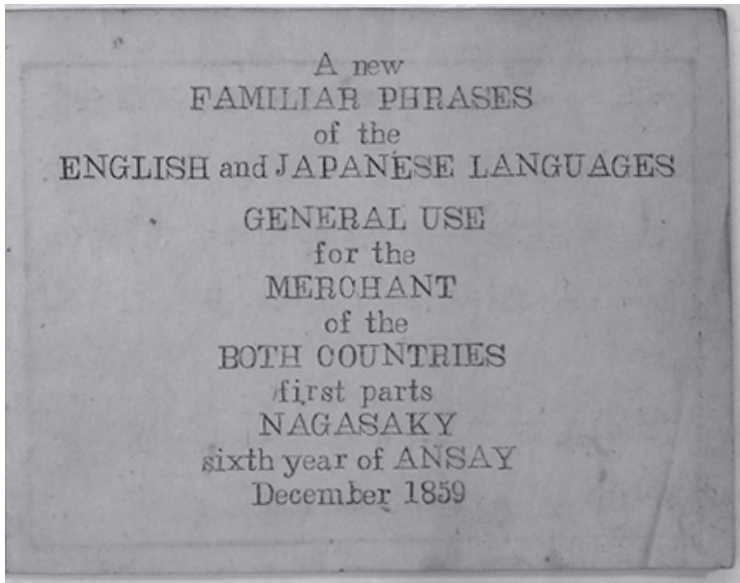
24 和英商賈対話集 初篇 本木昌造著

一八五九年十二月 長崎 塩田幸八刊

日本の近代活版印刷の先駆者、本木昌造が自作の欧文鑄造活字を用いて最初に出版した英会話書です。<sup>13)</sup> 商賈は商人の意味です。書誌は次の通りです。

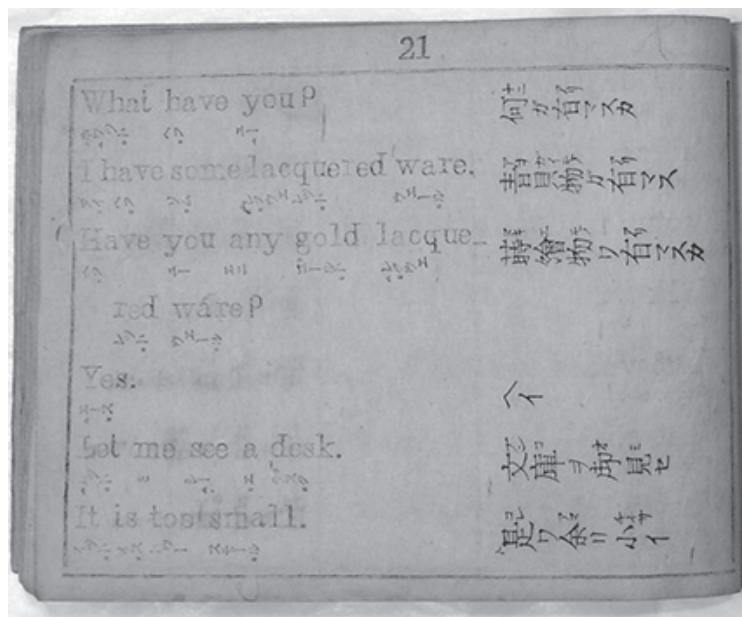


©Kanda Sano Library, KUIS.

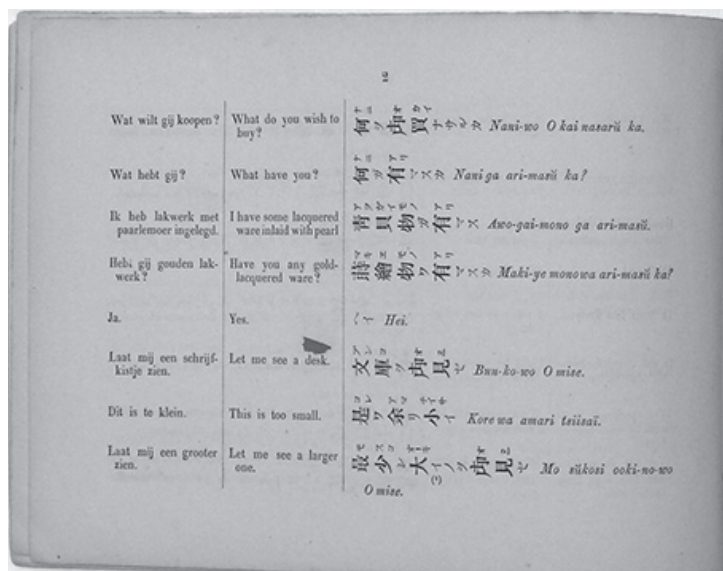


©Kanda Sano Library, KUIS.





©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.

(2). 7½ pp. 袋綴じは天と前小口を開ける。無題簽。凡例は整版。凡例の第二丁は欠丁。奥付を欠く。標題紙と本文の欧文と発音表示の片仮名は金属活字。本文の和訳文は整版。標題紙は「A new / FAMILIAR PHRASES / of the / ENGLISH and JAPANESE LANGUAGES / GENERAL USE / for the / MERCHANT / of the / BOTH COUNTRIES / first parts / NAGASAKY / sixth year of ANSAY / December 1859」。

本書はオランダに渡り、次の25 Hoffman『蘭英日買物会話集』の底本となりました。巻末最終丁裏に「杉浦丘園氏旧蔵書」印が捺されています。

25 Johann Joseph Hoffmann, *Winkelgespreken in het Hollandsch, Engelsch en Japansch*. Martinus Nijhoff, 's Gravenhage. I Trubner & Co., London. 1861. / Shopping-Dialogues in Dutch, English and Japanese. Published by J. Hoffmann, Japanese interpreter to the government of the Dutch East-Indies. (蘭英日買物会話集 蘭領インド政府日本語通訳 Hoffman 刊) XII, 44 pp.

本書は本木昌造著『和英商賈対話集 初篇』(長崎、1859)にオランダ語訳を付けて編集し、蘭英日三カ国語会話集とし

たものです。標題と序文は蘭英対訳。遊紙に WATANABE のアルファベットを組み合わせたモノグラムの蔵書印(朱文円印)があり、本文の所々に不審紙(赤通し)が付けられています。

本書は厚い洋紙製の帙のなかに、「THE GRAND STUDY / Leiden 1864 / 蘭英音訳 大学 和字傍訓 元治元年和蘭版」(表紙上段のペン書きの題簽による)とともに収められています。

この『大学』(朱熹章句序)は西周がライデンで Hoffman と協力して出版したものです<sup>(14)</sup>。また、帙の表紙下段には「WINKELGESPREKKEN / IN HET / HOLLAND. ENGEL. EN JAPANSCH. / DOOR / Dr. J. Hoffmann. 'S GRAVENHAGE. / 1861. 蘭英和訳商店会話 和漢字和蘭植民省印刷」とペン書きした題簽を貼付しています。二つの題簽は所蔵者渡邊修二郎の手書きでしょう。

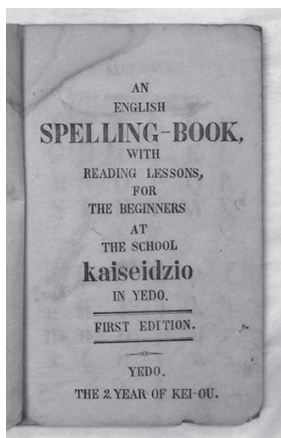
帙の見返しには、「東京／渡邊外交文庫／(家紋) FAS EST ET AB HOSTE DOCERI」／ Shuziro Watanabe / Tokyo.」との蔵書票があります。このラテン語は「よく敵から学ばずとも学ばべし」の意で、オヴィディウスの言葉です<sup>(15)</sup>。



## 26 英語階梯 和刻本 慶応二年（一八六六）開成所刊

幕府は英文法書 *The Elementary Catechismus. English Grammar.* London, 1850. 復刻版（蕃書調所、一八六一）<sup>15</sup>、堀達之助訳『英倭対訳袖珍辞書』（洋書調所、一八六二）の刊行に続いて、慶応二年、洋書調所の後身開成所の教科書として本書を出版しました<sup>16</sup>。

この初版は、二七丁。木活字版です。表紙は欠落し、ハーフタイトルページ「ENGLISH / SPELLING-BOOK」から始まります。ハーフタイトルページに「野口」印（朱文円印）が多数捺されています。典拠は Lindley Murray, *An English spelling-book: with reading lessons adapted to the capacities of children.* の第一部です。標題紙に「AN ENGLISH SPELLING-BOOK, WITH READING LESSONS, FOR THE BEGINNERS AT THE SCHOOL kaiseidzio IN YEDO.



©Kanda Sano Library, KUIS.

FIRST EDITION. YEDO. THE 2. YEAR OF KEI-OU.]とあります。

## 27 英綴字 足羽県小学校内頒行本

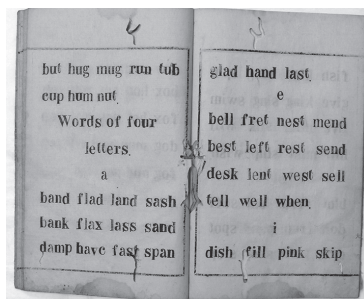
明治五年（一八七二）一〇月 福井藩頒行

幕府開成所刊行の『英語階梯』（慶応二年）の抜粋を小学校用の英語入門書として、美濃判で刊行したものです。美濃判は往来物（寺子屋の教科書）によく使われた大判です。

足羽県は明治初年、現在の福井県の中心部にあった県です。明治五年四月、足羽県活版局は同年八月二日の学制発布に先駆けて、英語入門書『官許ホルストブック』（First



©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.

book of lessons for the use of schools. 小本、36 pp.)とドイツ語教本『官許独学階梯』(左四眼袋綴じ、小本、五〇丁)を金属活字版で翻刻。さらに同年初冬九月に本書『英綴字』を出版しました。

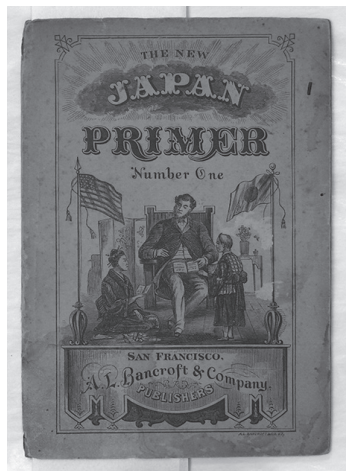
書誌は次の通りです。二一丁。題簽(中央)「明治五年初冬刊／英綴字／足羽県小学校内頒行本」。冒頭第一丁表の綴じ目、左下、匡郭外余白に「福井藩頒行本」と小さく印刷されています。冒頭三丁は整版、残り一八丁は木活字版。前表紙見返しに「This book belong to H. tanabe」の墨書があります。

さらに、「若狭国遠敷郡堤村桂」「苗代益穩道人」「南越産人南條道人」「直指道人」「若狭国遠敷郡堤村桂桂雲寺内」「曹洞学林宗費生 苗代益隱」「越前国南條郡坂口村 少林寺徒弟」「福井県越前山中学校生徒」「田辺白龍英学先生」などの墨書が多数あります。

本文庫には、これら足羽県出版の外国語教科書三点が揃っています。他に例がなく大変貴重です。

28 William Elliot Griffiths, *The new Japan primer, number one. Introductory to the new Japan readers.* San Francisco, A.L. Bancroft and Company, 1872. 30 pp.

この英語読本の著者グリフィスは明治初期の御雇外国人教



©Kanda Sano Library, KUIS.

師です。明治四年(一八七二)三月七日から翌年一月二〇日まで福井藩校で理科を教えたあと、明治五年大学南校に移り、明治八年に帰国しました。

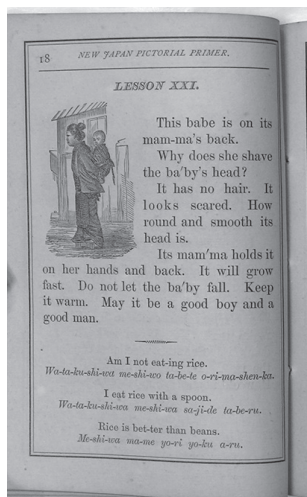
表紙の絵はリンカーンを思わせるアメリカ人教師が椅子に座り、両脇の和装の日本人男女生徒を教えています。文明開化の盟主、アメリカ合衆国というイメージです。

表紙のタイトルは「THE NEW / JAPAN / PRIMER / Number One / SAN FRANCISCO. / A. L. Bancroft & Company. / PUBLISHERS」。前表紙見返し(白紙)に書店ラベル「FROM F.R. Wetmore & Co. BOOKSELLERS, &c. Yokohama, Japan」を貼付しています。標題紙は「THE / NEW JAPAN / PRIMER. / NUMBER ONE. /

INTRODUCTORY TO THE NEW JAPAN READERS. /  
By WILLIAM E. GRIFFIS. / Professor of Chemistry and  
Physics. / IN THE MOM BU NAN KO / TOKEIO. / SAN  
FRANCISCO. / A. L. BANCROFT AND COMPANY. /  
1872. / FIFTH YEAR OF MEIJI.」本文は発音とルンフ  
ンミッド Lesson I ~ Lesson XXVI. Common phrases. かな  
なり、挿絵はありません。

29 William Elliot Griffiths, *The new Japan pictorial primer.*  
*Introductory to the new Japan readers.* San  
Francisco, A.L. Bancroft and Company, 1872.  
(2), ii, 3-43 pp.

グリフィスが前書の続編として同じ出版社から出した絵入



©Kanda Sano Library, KUIS.

り英語読本です。表紙の絵は同じです。表紙のタイトルは  
「THE NEW / JAPAN / PICTORIAL PRIMER / SAN  
FRANCISCO. / A. L. Bancroft & Company. /  
PUBLISHERS.」前表紙見返しは白紙。標題紙は「THE /  
NEW JAPAN / PICTORIAL PRIMER. /  
INTRODUCTORY TO THE NEW JAPAN READERS. /  
By WILLIAM E. GRIFFIS, A. M. / Professor of Chemistry  
and Physics. / IN THE MOM BU NAN KO / TOKEIO. /  
SAN FRANCISCO. / A. L. BANCROFT AND COMPANY.  
/ 1872. / FIFTH YEAR OF MEIJI.」本文は Lesson  
I. ~ Lesson XLII. Common phrases. かななりです。小口木  
版の挿絵が多数入っています。

英文テキストの話題には日本風俗も積極的に取り入れてい  
ます。福井での著者の見聞が反映されているでしょう。

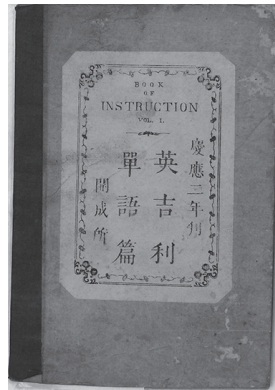
タイトルにある pictorial (絵入り、の意) は精巧な木口木  
版の挿絵を盛り込んだ一九世紀英米の教科書・辞典・教養書  
の書名で、好んで使用された形容詞です。

30 英吉利単語篇 慶応二年 (一八六六) 開成所刊行 再  
版 (2), 76 pp.

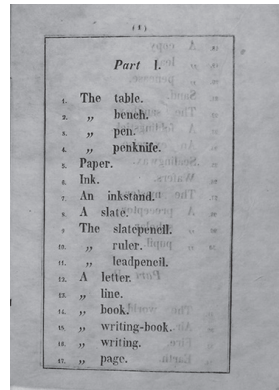
幕府開成所が同じ年に刊行した初版より、わずかに小ぶり  
な再版です。英単語一四九〇語を Part I ~ Part V の五部に

分けた英単語分類語彙表です。訳語は付けられていません。

題簽(中央)「BOOK OF INSTRUCTION VOL.1 / 慶応二年刊／英吉利／単語篇／開成所」。標題紙「BOOK / FOR / INSTRUCTION / AT / THE SHOOL KAISEIZO / IN YEDO. / VOL. I / FIRST EDITION. / YEDO. / ANNO 2. KEIOU」に「開成所刊行」印と「宮川藏書」(朱文方印、



©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.

上から大木藏書と重ねて墨書)があります。和紙両面印刷。活版。前表紙見返しに「三柳居杉浦氏藏書記」印があり、杉浦三郎兵衛筆の解題(薄緑短冊)が挿入されています。

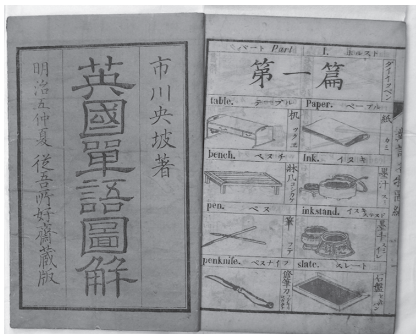
### 31 単語図解

市川央坡(清流) 著 上冊

明治五年(一八七二)五月刊

慶応二年開成所刊行『英吉利単語篇』の図解版です。

下冊は明治七年一月刊。上下二冊ともに従吾所好斎蔵梓。左袋綴じ。図は下冊末尾の国名・国旗(多色刷り)を除いて茶色刷りです。版心「対訳名物図編」。題簽(中央)「(英国)



©Kanda Sano Library, KUIS.

単語図解 上(下)。上下二冊の構成は次の通りです。

上冊、三八丁。前表紙見返し「市川央坡著／英国単語図解／明治五仲夏從吾所好斎藏」。「パート Part I. ホルスト」(第一篇)～「パート Part IV. フラアー」(第四篇)を収載。三八ウの奥付「市川央坡著／明治五年蒲月新刊 從吾所好斎藏梓。後表紙見返しは白紙。

下冊、第三八丁～第七六丁。第三八丁の丁付けは「三十八」とありますが、上冊の「三十八」と異なる丁です。第三八丁表は題字「英国単語図解 墨斎書」。「パート Part V. ヒフツ」(第五篇)を収めています。後表紙見返しの奥付は「明治七年一月新刻／市川央坡著／和泉屋半兵衛・万屋忠藏梓」。

著者市川清流(号は央坡)は国学・漢学者です。文久二年(一八六二)の遣欧使節副使松平康英の従者として渡欧し、翌年帰国しました。著書に『尾蠅欧行漫録』(文久三年自序)があります。のち文部省の官吏となりました。

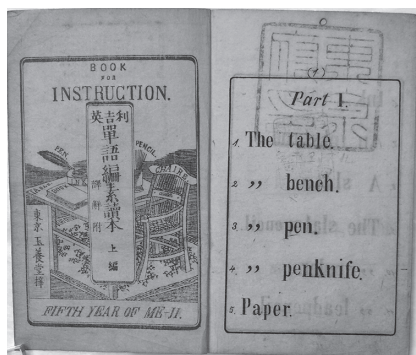
# 32 英吉利単語篇素読本 訳解付

明治五年(一八七二) 玉養堂梓

慶応二年開成所刊行『英吉利単語篇』を復刻し、各巻末に「訳解」と題する訳語表を付けています。書名に「素読」「訳解」という漢学流の英語学習法を示す語を用いています。書

誌は次の通りです。東京、西京(京都)、大坂の三都に広く販売されたようです。

上下二冊。各冊一オに「東京府印」(朱文方印)。題簽(中央)「BOOK / FOR / INSTRUCTION [sic] / 明治五千申歲開版／〈英吉利単語篇〉素読本 上(下)編／訳解付」。上冊。四〇丁。前表紙見返し(絵入り扉)「BOOK / FOR / INSTRUCTION. / 〈英吉利〉単語編素読本 上編／訳解付 / FIFTH YEAR OF MEI-JI. / 東京 玉養堂 (朱文方印)」。後半の九丁は前半三二丁 (Part I. ～ Part III.) の計三四〇語句 (1. ～ 340.) に対する訳解。



©Kanda Sano Library, KUIS.



下冊。四六丁。後半の一〇丁は前半三六丁 (Part IV) の計四〇〇語句 (341 ~ 740) の訳解。後表紙見返しに西京 (村上勘兵衛、出雲寺文次郎)、大坂 (秋田屋市兵衛、鶴賀屋九兵衛)、東京 (須原屋茂兵衛以下都合一〇名) を掲げています。

### 33

泰西訓蒙図解

田中芳男訳

明治四年 (一八七二) 二月 文部省刊

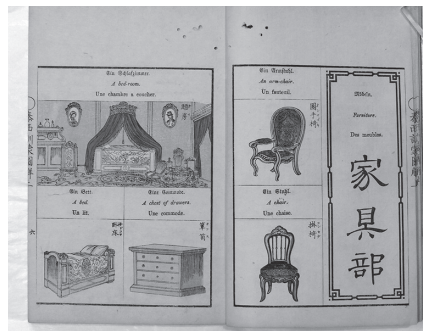
訳者の田中芳男は伊藤圭介の門人で、幕末明治期の物産学者です。幕府物産方として一八六七年のパリ万博に参加し、明治初期には文部省で西洋式の掛図や「図解」による博物教育を推進しました。のち農林水産業の近代化を進めるため産業博物館の実現をめざしました。

本書は左図のように、每半葉四図の木版彩色図にドイツ語、英語、フランス語、日本語の名称を付けて図解しています。

本書の書誌は次の通りです。

右袋綴じ。上下二冊。題簽 (左) 「官版」泰西訓蒙図解上 (下)。

上冊。三二丁。前表紙見返し「田中芳男訳 内田晋斎校 (黒印…文部省) / 泰西訓蒙図解 / 明治四年辛未冬十二月刊行 文部省」。叙 (一丁、白文、句点付き) 末尾「明治四季



©Kanda Sano Library, KUIS.

辛未仲秋 文部少助教内田嘉一誌并書」。附言・目次 (二丁)。家屋部、屋財部、家具部、食器部、庖厨具、酒窖具、馬房具、工匠具、衣服類、村落部、園囿部の一一部門からなります。

下冊。三二丁。莊務部、家畜部、野獸部、学校部、要楽部、遊戲部、都街部、鉄道部、駕車部、海洋部、兵卒部の一一部門からなります。後表紙見返しに「官版」御用御書物師」として須原屋茂兵衛、山城屋佐兵衛、岡田屋嘉七、和泉屋金右衛門、和泉屋市兵衛、紀伊国屋源兵衛、出雲寺万次郎の七名を掲げています。

34 英語傍訓実語教 成性主人編

明治六年（一八七三）四月 成性館蔵版 鈴木喜右衛

門・水野慶次郎発兌

実語教は童子教とともに、江戸時代の寺子屋教科書の定番でした。本書では実語教の漢字一字一字に英語の訳語を付け



©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.

ています。英文の単語一語一語に訳語（漢語）を付けて読み下す、漢学流の英語学習法を漢文に応用した例として、その有効性はともかく、興味深いものです。

前表紙見返しと同版ですが、多色刷りの袋付きです。漢学から英学への転換が児童の服装で表されています。書誌は次の通りです。

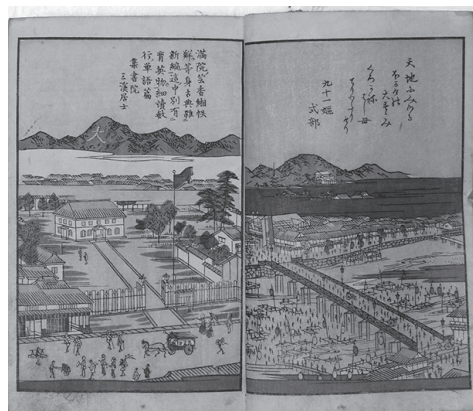
（一）+12丁。題簽（左）「英語傍訓」実語教 全」。前表紙見返し（二）「遊戯図入り」「官許 明治六年新鐫／成性主人纂加／〈英語傍訓〉実語教 全／東京 成性館蔵版」。「緒言」末尾「于時大日本紀元二千五百三十三年初夏 東京神田成性主人誌」。版心「成性館蔵書」。後表紙見返し「実語教終／〈英語傍訓〉童子教 近刻／書肆 東京本石町二丁目 鈴木喜右衛門 通油 水野慶次郎」。

35 開化節用集 宇喜田小十郎輯

明治八年（一八七五）一二月 遠藤平左衛門開版 文明

書樓蔵

節用集は江戸時代に民間に流布した以呂波引きの漢字字典です。日常生活で使用する草書体から楷書体を知るツールでした。本文は以呂波による音引きと、同音で始まる語彙の伝統的な部立て（乾坤時候など）を組み合わせ、頭書き（頭注）に百科事項を載せています。幕末開国以降、節用集に洋



©Kanda Sano Library, KUIS.

学知識が盛り込まれて行きます。

明治初年京都で出版された本書の多色刷り口絵は「勸業場図 三溪」「四条大橋図」九十一 堀 式部」「集書院 三溪居士」「造幣寮・電信機・学校・郵便」「蒸気船・鉄道・燈台・人力場車」と、京都の文明開化をよく表しています。集書院は明治五年に開館した日本最初の近代公共図書館です。三溪は漢学者菊池三溪です。

四条大橋図の賛に「天地にみつる／ほかけの／大すすみ／くろかねはしも／はれわたりけり／九十一 堀／式部」とあり

ます。これを翻字しますと「<sup>あまて</sup>天地に満つる<sup>ほかけ</sup>火炎の大涼み<sup>くろかねはし</sup>鉄橋も晴れ渡りけり」となります。「大涼み」は旧暦六月七日から一四日に行われた祇園の納涼行事を言います。四条大橋は当時、欄干が鉄製となり「くろがねばし」と呼ばれました。式部は歌人高畠式部。明治一四年九八歳で没しました。

三溪の賛の読み下しは「満院の芸香細帙、鮮やかにして、等身の古典、新編に雑じる、這の中、別して育英の物有り、細読数行の単語篇」。「細読数行の単語篇」は開成所刊行の『英吉利単語篇』に始まる一連の英語単語編をさすと思われる。

この節用集の書誌は次の通りです。一六六丁。題簽（左）「宇喜田小十郎輯」開化節用集 全」。前表紙見返し「宇喜田小十郎輯／〈官許〉開化節用集／京都 文明書楼蔵」。題字「無尽蔵 明治乙亥十二月 江馬欽題」。江馬欽は京都の書家・文人江馬天江です。

本文は、いろは引き「漢語字」（一オー一三八ウ）と「開化当用文章」（二三九オー一六〇ウ）からなります。頭書に「西洋草書小字」「同常用之点記」「西洋数字」「同符」があります。

最終丁才奥付「明治七年三月十三日官許 同八年十二月刻成／輯者 京都府下平民 宇喜多小十郎（住所略）開版人 京都府下書林商 遠藤平左衛門（下略）」。最終丁ウに「西京



©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.

書肆」として、村上勘兵衛、出雲寺文治郎、藤井孫兵衛、風月庄左衛門、大谷仁兵衛の五人を掲げ、大谷仁兵衛に朱印があります。

### 36 あそびこのちゑくらべ二冊 木版

文明開化期、知識階層の子弟には、伝統的な漢詩文や和歌・俳諧に加えて、新しい英学の教養が求められました。本書の第二冊は俳句を冠した和風の英単語帳です。著者・刊行者・刊行年は不明です。

第一冊は表紙共一二丁。前表紙は題簽を用いず、洋風の花飾りの枠に「あそびこのちゑくらべ／共二冊」と書名を印

刷しています。加賀の千代女の名句で始まる

「朝貞あさかにつるべとられて囉もひ水みづ／さけ／てうちん／だいこ／にざかな／もち／からみ／まくら／ふえ／てんまぶね／かばやき」(一ウゝ二オ)のように、見開き左右一面に、彩色五小図(物品の絵解き)を配し、各面右端に俳句を掲げます<sup>18)</sup>。英単語はありません。後表紙に墨書「愛知県知多郡尾州亀崎村間瀬八右衛門 伊東源四郎持」があります。



©Kanda Sano Library, KUIS.

第二冊 一ウー二オ (下図参照) を翻字しましょう。

「行燈をかぜにとられて月涼し」  
Cucumber [sic] 胡瓜 / Crab 蟹 / Persimmon 柿子 / Mask 仮面 / Singing-woman 妓女 / Puppet 偶人 / Mory [sic] 通宝 / Peacock 孔雀 のように、見開き左右1面に、フリガナ付き英単語一〇語(ふりがな付き訳語入り)を配し、各面右端に俳句を掲げます。英単語は都合一〇〇語です。後表紙に墨書「伊東桑太郎」があります。

37 大しんばん英国廿六文字絵直 刷り物 一枚

若林正治コレクションには、以呂波のローマ字綴りやアルファベットの字形を教える刷り物や折り本が沢山集められています。その中からこの刷り物を選びました。

絵直しは幕末に流行した遊戯です。相手に任意の文字や図形を与え、その文字や図形を含む絵を描かせて楽しめます。文明開化期、庶民がアルファベットから連想するイメージは欧化されてない身の回りの世界をユーモアとともに彷彿とさせてくれます。縦三六mm、横二五四mm、刊行年・刊行者は不明です。説明文の翻字は別紙の通りです。( ) 内は補足です。

A ゆうだちにからかさ (夕立に唐傘)

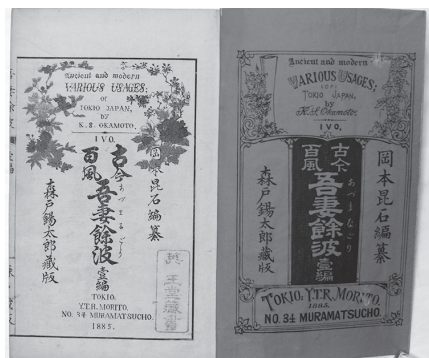


L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B
茶ミせのせうぎ	芝居のまく引	小べんたごのかこひ	往来のとうろう	往来の木戸口	歯いたのかうやく	かど口のと	かミはらぬ あんど	唐うちわ	ざんぎりのかを	おきやがりこぼうし
(茶店の床几)		(小便担桶の囲ひ)	(往来の燈籠)		(歯痛の膏薬)	(門口の戸)	(紙張らぬ行燈)	(唐团扇)	(散切りの顔)	(起き上がり小法師)



M	つる	(鶴)
N	かまきり	
O	げぼうさん	(外法さん、福祿寿・寿老人)
P	台ちやうちん	(台提灯)
Q	向ふむきのねづみ	(向ふ向きの鼠)
R	椅子にこしかけている人	
S	両頭のへび	
T	てぬぐひかけ	(手拭ひ掛け)
U	うへ木ばち	(植木鉢)
V	でんくむし	
W	越後じしさかだち	(越後獅子逆立ち)
X	しつばくだひのあし	(卓袱台の脚)
Y	竿あげ	
g	きつね	
c	くゝりざる	(括り猿)
e	印ろう	(印籠)
t	つるべ上るいかり	(釣瓶上る錨)
Z	病石衛門たたみのたて	(畳の楯)

当五十音英字絵直し続きて出版仕り候御求被遊可被下候  
以上



©Kanda Sano Library, KUIS.

38

あづまをこり  
吾妻余波 巻編 岡本昆石編

明治一八年(一八八五)一〇月 森戸 太郎蔵版「英王

堂蔵書」(朱文長方印) チェンバレン旧蔵書

一八八〇年代は欧米の世界旅行ブームに乗り、富裕層が秘境を求めて、日本にも大勢押し寄せた時代です。文明開化によって廃棄されていく、日本の古い文物や風俗がかえって欧米人の興味関心を集めました。

本書の編者は文明開化・欧化主義の風潮に抗して、消えゆく江戸徳川の風俗を木版多色刷りの絵入り百科事典の形に留め、一矢を報いようとしています。英文の説明を加え来日

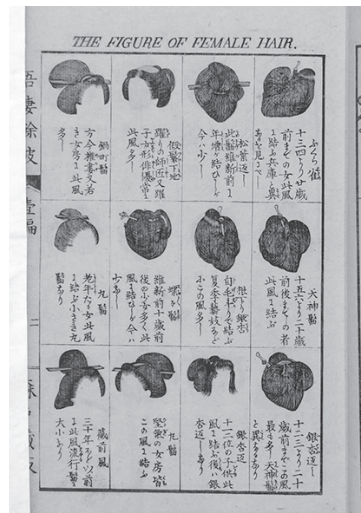
欧米人の需要にも応えています。

そのため、装丁も和本に洋書の要素も取り入れています。右袋綴じとし、表紙見返しに和本の扉をつけていますが、第一紙を洋書にならった標題紙として、扉も標題紙も書名、著者名、刊記を和英両語で記しています。

目次も日英両語です。英語目次 (CONTENTS) は「The figure of female hair. / Common trade marks. / Japanese hat and cap. / hair-tool of women. / Hair-pins and combs. / Japanees [sic] female clothing. / The amusements of children. / The words of children. / Exhibitions for money. / The kind of beggar. / The celebrated [sic] article and food in Tokio. / The names of cake」。

対応する日本語「目録」は「婦女の髪風并考／看版譜／冠物の図并考／婦女の髪結属品／櫛（くし）／簪／簪／婦女の衣服／子供遊戯の図寄／幼稚言葉の図寄／東都名物／東都菓子名寄」です。

書誌は次の通りです。六二丁。多色木版図多数。題簽(左)「Ancient and / modern / Various Usage / of Tokio. / IVO. / 〈古今百風〉吾妻余波 志編」。前表紙見返し(扉)「Ancient and modern / VARIOUS USAGES: / (OF) / TOKIO JAPAN. / by / K. S. Okamoto. / 1 VO. / 岡本昆石編纂／〈古今百風〉吾妻余波 志編／森戸錫太郎蔵版／TOKIO:



©Kanda Sano Library, KUIS.

Y.T.R. MORITO. / 1885. / NO. 34 MURAMATSUCHO.」。

絵入り標題紙「Ancient and modern / VARIOUS USAGES: / OF / TOKIO JAPAN. / by / K. S. Okamoto. / 1 VO. / 岡本昆石編纂／〈古今百風〉吾妻余波 志編／森戸錫太郎蔵版／TOKIO: Y.T.R. MORITO. / NO. 34 MURAMATSUCHO. / 1885.」。「英 王堂蔵書」は英国人日本研究家バジル・ホール・チェンバレンの蔵書印です。

標題紙裏の口絵(桜蝶国峯画)中央に「森戸氏蔵版印」(朱文方印)。題字「采風備貌 岡州居士題(白文方印: 劇場外史)」。序(和文、匡郭上部余白に PREFACE) 末尾「明治十八年四月 痴囊諧史(朱印: 痴囊)」。編者序(和文、匡郭上部余白に PREFACE) 末尾「明治十八年五月 編者識」。

奥付(五三ウ)は二編(岡本昆石編輯・鮮斎永濯図画)目録のあとに「明治十八年一月廿四日版權免許 同十八年十月出版 編輯人 東京府士族 岡本経朝 芝区愛宕下町一丁目一番地 同森戸錫太郎 日本橋医区村松町三十四番地 発売人 同万字屋錫太郎 同」。最終丁に大取次(五名)、東京大売捌(四九名)、府外大売捌(二二名)を掲げています。

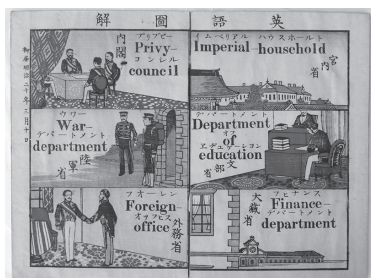
### 39 英語図解 福田熊次郎画

明治二〇年(一八八七)三月 皇都出版社刊 折本 一帖

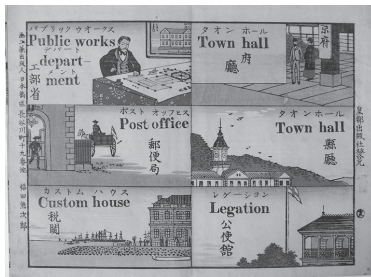
福田熊次郎は明治一〇年代から活躍した浮世絵師です。明治初期の絵入り英単語書としては、身近な文物や日常語彙を絵解きした『英学童観抄』、開成所刊行『英語単語篇』を絵解きした市川清流編『英国単語図解』があります。しかし、挿絵はいずれも無署名です。

本書は名のある浮世絵師が木版多色刷りの腕を生かした英単語書として、また、日常語彙だけでなく、国会開設の詔(明治一四年)以来整備されつつあった近代国家の諸機構、諸施設をも分かりやすく絵解きしている点で注目されます。すなわち、宮内省(Imperial-household)、文部省(Department of education)、大蔵相(Finance-department)、内閣(Privy-council)、陸軍省(War-department)、外務省

(Foreign-office)、工部省(Public works department)、郵便局(Post office)、税関(Custom house)、府庁(Town hall)、県庁(Town hall)、公使館(Legation)などの絵解きです。書誌は次の通りです。題簽(中央)「英語図解」。表紙に「皇都」「出版」「社」のエンボス加工文字。多色木版。両面印刷。見開き左右各三小図、表裏合計六〇小図。「御届明治二十年三月十五日」。「画工兼出版人 日本橋区長谷川町十九番地 福田熊次郎」。「皇都出版社発兌」。



©Kanda Sano Library, KUIS.



©Kanda Sano Library, KUIS.

## おわりに<sup>19</sup>

この講演のはじめに申し上げました明治一五〇年を、一七七〇年代の世界史と文明の転換という二つの視点から考えることの意義に、もどりましょう。

実は「文明」という言葉は古くから中国や日本にあり、世の中が文<sup>あや</sup>なして明るく光る状態を意味しました。また、「觀光」とはそうした状態の国を訪れ、その国の光（文明）を観ることでした。しかし、明治初期に使用された「開化」あるいは「文明開化」はヨーロッパ文明（科学技術から社会制度まで）の導入を意味し、「文明」はヨーロッパ文明のみを指していました。

ヨーロッパでも当時、文明は自文明だけと考えられ、エリートの大多数は宣教師も含めて、非文明すなわち未開の地域・諸国を開化する使命感に燃えていました。文明史観と植民地経営は一体のものでした。一九世紀の中頃から、欧米で「文明」の語を普及させるのに最も貢献したのは、エリート教育の教科書として盛んに使われていたフランスの歴史家ギゾーの『ヨーロッパ文明史』（フランス語初版、一八三八）だと思います。この教科書はフランス革命の過激主義を否定し、ヨーロッパ政治社会制度の連続性に文明の本質をみる穩

健保守の立場から書かれています。非文明世界、植民地への視点は見られません。

「文明」を意味する英語の civilization はフランス語起源です。フランス語の civilisation が初めて生まれたのは古いことではありません。フランスの哲学者ミラボー伯が著書『人類の友』（一七五七）のなかで、キリスト教的道徳にもとづく礼節という意味で使ったのが最初です。しかし、ミラボー伯は一七六〇年には進化（evolution）の観念と結びつけ、「社会的文化的進化の歴史過程」の意味で使っています。

ところで、日本は一七七〇年代に、蘭学の勃興により、本朝、唐、天竺の文明を脱却して、西洋文明を第四の文明として発見したと申しましたが、いうまでもなく本朝は神道、唐は儒教（当時は儒道といいました）、天竺は仏教（仏道）を意味します。鎖国下、キリスト教は禁教でしたので、蘭学者の仕事は西洋文明と言っても、科学技術や海外情報を利用厚生（用を利用して生を厚くする）と日新（日々新たなり）という二つの儒教的観念のもとに摂取することでした。蘭学者の多くは儒医でした。利用厚生と日新は分野を問わず漢籍を幅広く学び研究する指導理念でしたので、それを蘭学に適用したわけです。蘭学は儒学の知的世界の中に位置づけられ、蘭学者はヨーロッパ的な「文明」の進化史観の外にありません。蘭書のテキストの読み方も方法的には漢籍の読み方と同

様でした。

幕府が開国後、安政三年（一八五六）に設置した西洋文明研究教育機関は当初、準備段階で「洋学所」と呼ばれましたが、最終的に「蕃書調所」と正式に命名されました。文化八年（一八一二）天文台に置かれ高橋景保が主任をつとめた「蛮書和解御用」になりました。開国と言っても依然としてキリスト教禁教下ですので、当然と言えば当然ですが、「蛮書」の歴史的意味は意外に深いものがあります。

蘭学はそもそも杉田玄白が『蘭学事始』で言うように、自称でした。国学者や儒者は「蛮学」と呼びました。オランダ語は「蛮語」、蘭書は「蛮書」、オランダ人は「蛮人」でした。「蕃書調所」頭取（校長）は蘭学者ではなく、儒者の古賀勤一郎でした。

しかし、幕府は文久二年（一八六二）、西洋文明の本格的な研究教育のために「蕃書調所」を組織改革して「洋書調所」と改称し、蘭学から英学・仏学へと転換しました。日本最初の英和辞書『袖珍英倭対訳辞書』は阿蘭陀通詞堀達之助とその協力者の手になるとはいえ、「洋書調所」が同年に刊行しました。攘夷の吹き荒れる中でしたが、英学、仏学は洋学と呼ばれ、英語、フランス語は西洋文明を摂取する上で必須の外国語となったのです。

時代は英仏通商条約（一八六〇）に象徴されるように、世

界的な自由貿易体制の成立期でした。英仏両語が文明語として世界を席巻していた時代ですから、幕府の選択は当然のことでした。

明治一五〇年を迎えた今年、西洋文明の発見から西洋文明への転換を経て今日までの歴史を洋学二五〇年として、考え直すことをただ提起するだけで、この講演を終えるわけですが、最後にひとこと付け加えれば、本朝、唐、天竺の三大文明観のもとに生きていた日本の知識人が西洋文明を発見したときの好奇心の強さ、視野の広さ、その学問の総合性、実証性、彼らの利用厚生精神は忘れてはならないと思います。

## 註

(1) 本稿は平成三〇年一月一日、神田外語大学において、同テーマの展示（同年一月一日～一六日、同大学附属図書館において開催）の解題目録（本稿筆者文責）を配布し、パワーポイント・プレゼンテーションによって行った講演内容を補足し編集したものである。

(2) [Pierre Claude Lejeune] *Observations critiques et philosophiques sur le Japon, et sur les Japonais*. Amsterdam, Knapen & fils, 1780. 本書のオランダ商館長ティチング手沢本が東京大学総合図書館に所蔵される



〔図書番号 A100.38〕。東京帝国大学附属図書館が関東大震災で蔵書を焼失したあとの収蔵書であらう。ティチングは一七七九年から八四年にかけて三期、商館長を勤めた後、八五年から九二年までベンガル長官としてインドのチンスラに在勤。一七九三年にオランダ東インド会社の遣清大使として乾隆帝に謁見した。ティチングは自分の日本での見聞に基づき、本書の日本の風俗や芝居に関する記述を訂正した。巻末に「本書は中国で奉使旅行中に通読した。暴論に過ぎるところがいくつもあったので、注を書き加えざるを得なかった。一七九六年一月一日、広東にて、*「ティチング」*と記している。一方、原敬はいつのことかパリ滞在中にセーヌ河畔の古本屋で本書の一本を見つけた。それをもとに、蜷川新が正時代に「日本人の徳義」「日本人の悪徳」「日本人と英国人との間の相似点」の三章を抄訳し、『古き外人の観たる日本国民性』（拓殖新報社、一九二一）と題して出版している。原敬は本書を「日本人の道義心の高さを称揚し日本人の絶対に平和を愛好する国民なるを述べたもの」（同訳書の序文）として珍藏していた。蜷川は前書きの「本原書の内容」で「友人たる蘭人某氏の調査の結果、古き一蘭人宣教師の著作であることが判明した」とするが、誤りである。

〔3〕 光太夫のロシア文字の伝存状況については、鈴鹿市光太夫記念館の代田美里学芸員のご教示による。

〔4〕 嘉永年間に第二次福寿草ブームがあった。嘉永年間の彩色写本「七五三福寿草写生」（山本読書室資料）は七福神、鶴、亀、松、竹、梅の五種に柿本人麻呂、玉津姫、山部赤人の三人を加えた一五の絵柄の染付鉢に生けられた福寿草を描いている。

〔5〕 杉浦三郎兵衛はその蘭学資料コレクションをみずから編集した『和蘭及外国関係図書并物品目録』（杉浦丘園編、杉浦雅楽堂、一九二一、追加目録とも）に記載した。また、同時に（一九二一年一〇月二三日）、京都市岡崎公園内の京都府立図書館で「和蘭会」と名付けた展示を行い、宝暦七年（一七五七）の「和蘭使臣観劇感賞文」など愛蔵品の「和蘭会記念絵葉書」三枚を配布した。なお、附属図書館の展示では『和蘭文字早読伝授』を蘭学資料ケースに展示し、展示解題目録では7番としたが、本講演ではこの順序で話題とした。したがって、この講演録と展示解題目録では資料番号が一致しない。

〔6〕 松田清・益満まを「神田佐野文庫所蔵 宇田川榕菴・辻蘭室筆『彩色ジャワ植物図譜』について」本誌所収、235頁（16頁）、231頁（20頁）頁および註（24）参照。

〔7〕 掲載の写真は袋綴じの原本を解本して丁の表裏を撮

影したもの。

- (8) ポンペは主として、ブック『人体解剖学提要』オランダ語版 (C. E. Bock, *Hand-Atlas der anatomie van den mensch*. Amsterdam, 1842.) によつて、講義録をまとめた。

- (9) 「東洋道德と、西洋芸術と、精粗遺さず、表裏兼該し、因りて以て民物に沢し、国恩に報ずるは、五の樂なり」(原漢文)『省魯録』(安政元年冬成、明治四年刊)。(10) 土屋は明治初年に養生所の後身である長崎医学校の教官をつとめた。

- (11) 以下に紹介した英学資料の資料番号、整理番号、寸法は、省略した。それらについては、松田清編「神田佐野文庫若林正治コレクション英学資料目録」(二〇一八年一月一日、電子版、神田外語大学附属図書館神田佐野文庫ホームページ掲載 [https://kuis.liguides.com/ld.php?content\\_id=45300698](https://kuis.liguides.com/ld.php?content_id=45300698)) 参照。

- (12) 本書は、国立国会図書館所蔵 (428.24/.P634f)。堀達之助の英文序文 (HORI TASNOSKAY. YEDO, september 27 th 1860.) がある。Cf. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1699606>

- (13) 本書は初刷りではなく後刷り。本木昌造が万延元年(一八六〇)に出版した蘭英対訳『蕃語小引』は、欧

文、和文とも鑄造活字である。

- (14) このライデン版『大学』は欧州で初めて漢文訓読法を紹介した文献として注目される。なお、これより一〇年前に、ホフマンはシーボルトが日本から持ち帰った賀来佐之・伊藤圭介録『日本植物目録』改訂稿、および伊藤圭介収録の日本植物標本をもとに、ホフマン、スビュルテス編『日中植物名彙』(J. Hoffmann et H. Schultes, *Nons indigènes d'un choix de plantes du Japon et de la Chine*. Paris, Imprimerie impériale, 1853. / *Journal Asiatique*, Oct.-Nov. 1852, Vol. XX, pp. 257-370.) を発表し、日本植物の漢名を欧州に初めて本格的に紹介した。賀来佐之の貢献は伊藤圭介の陰に隠れて長い間埋れたままであった。

- (15) 『変身物語』(Ovid, *Metamorphoses* 4:428)。

- (16) 蕃書調所が文久元年に復刻した活版『The Elementary Catechismus. English grammar.』は開成所に引き継がれて版を重ね、慶応二年には第五版を数えた。若林正治コレクションの第五版には「加州軍艦局文庫之記章」印がある。

- (17) 本書の原典は未詳。ドイツ語圏でフランス語や英語の単語を生徒に教授するために出版された、おそらくクラーク石版図入りの教科書と推定される。

(18) 俳句は上下二冊で、都合二〇句を掲げる。

(19) 講演では時間的制約のため断片的な発言に終わった

ものを、以下に展開した。